



# 目次

<b>1. CALS-BASE.NET の概要</b>	<b>1-1</b>
1.1. CALS-BASE.NET (Ver.5) とは	1-1
1.2. CALS-BASE.NET の特徴	1-2
1.2.1. 高い視認性による高効率と高精度	1-2
1.2.2. 詳細なチェック機能	1-2
1.2.3. 納品エラーを防ぐための各種制限機能	1-2
1.2.4. プログラムランチャー機能	1-3
1.3. CALS コンバータとの機能比較	1-4
1.4. 電子納品成果の依存関係と登録順序	1-5
1.5. 電子納品成果作成の流れ	1-6
1.6. 他の電子納品支援ツールとのやり取り	1-6
<b>2. インストールガイド</b>	<b>2-1</b>
2.1. レンタル版の利用	2-1
2.1.1. ダウンロードおよびインストール	2-1
2.1.2. アンインストール	2-2
2.1.3. Kiso-Cloud 認証システム	2-3
2.2. システムの起動および終了	2-7
2.2.1. システムの起動	2-7
2.2.2. システムの終了	2-7
<b>3. 画面構成</b>	<b>3-1</b>
3.1. メイン画面構成	3-1
3.2. メニューおよびツールバー構成	3-2
3.3. コンテキストメニュー構成	3-3
3.3.1. 管理ファイル一覧表	3-3
3.3.2. フォルダ状況	3-3
<b>4. 電子納品フォルダの指定</b>	<b>4-1</b>
4.1. 新規[電子納品]フォルダ作成	4-1
4.2. [電子納品]フォルダを開く	4-1
4.3. [電子納品]フォルダを上書き保存	4-2
4.4. [電子納品]フォルダを指定して保存	4-2
4.5. アプリケーションの終了	4-2
4.6. [電子納品]フォルダ登録時のチェック機能	4-3
4.7. 成果品登録元フォルダ	4-4
<b>5. 電子納品成果の指定</b>	<b>5-1</b>
5.1. ボーリング交換用データ	5-1
5.2. 電子柱状図	5-2
5.3. 電子簡略柱状図	5-3
5.4. ボーリングコア写真	5-4
5.5. 電子土質試験結果一覧表～データシート交換用データ	5-4
5.6. 電子土質試験結果一覧表	5-5
5.7. 土質試験結果一覧表データ	5-6
5.8. 電子データシート	5-6
5.9. データシート交換用データ	5-7
5.10. デジタル試料供試体写真	5-9
5.11. グラフ・供試体スケッチ等	5-9
5.12. その他の地質・土質調査成果	5-10
5.13. 電子納品成果の指定解除	5-10

## 目 次

6. 管理ファイルの作成	6-1
6.1. 作成概要	6-1
6.2. 管理ファイル一覧表の統一事項	6-2
6.3. 管理ファイルのレイアウト	6-3
6.4. GRNDTST.XML 管理ファイル	6-4
6.5. 編集	6-5
6.5.1. 管理項目の再登録	6-5
6.5.2. 項削除	6-6
6.5.3. 行削除	6-6
6.5.4. 行上へ	6-8
6.5.5. 行下へ	6-8
6.5.6. 昇順ソート・降順ソート	6-8
6.5.7. 切り取り・コピー・貼り付け	6-8
7. その他の機能	7-1
7.1. ツール	7-1
7.1.1. 成果品の[登録元フォルダ名]欄を表示	7-1
7.1.2. ウィンドウ表示位置・サイズを記憶	7-1
7.1.3. ウィンドウを常に前面に表示	7-1
7.1.4. ツールバーの表示・ステータスバーの表示	7-1
7.2. 作成ソフトウェア名登録と参照機能	7-2
7.3. プログラムランチャーと参照機能	7-3
7.4. ヘルプ	7-4
7.4.1. 操作マニュアル	7-4
7.4.2. 電子納品要領	7-4
7.4.3. バージョン情報	7-4



## CALS-BASE.NET・操作マニュアル

---

Ver.1.0.0.0 2017/12：BORING フォルダ以下支援

Ver.1.0.1.2 2018/07：販売版認証システム更新

Ver.5.1.0.0 2026/05：地質・土質成果電子納品要領（令和8年2月）対応

発行所 基礎地盤コンサルタンツ株式会社  
情報システム部・システム開発室

〒135-8577 東京都江東区亀戸 1-5-7 錦糸町プライムタワー12階

問合せ e-mail : 販売版 : base@kiso.co.jp  
: レンタル版 : kiso-cloud@kiso.co.jp

---

# 1. CALS-BASE.NET の概要

本章では、CALS - BASE.NET の概要について説明します。

電子納品要領

<http://www.cals-ed.go.jp/>

電子納品に関する要領・基準

[http://www.cals-ed.go.jp/cri\\_point/](http://www.cals-ed.go.jp/cri_point/)

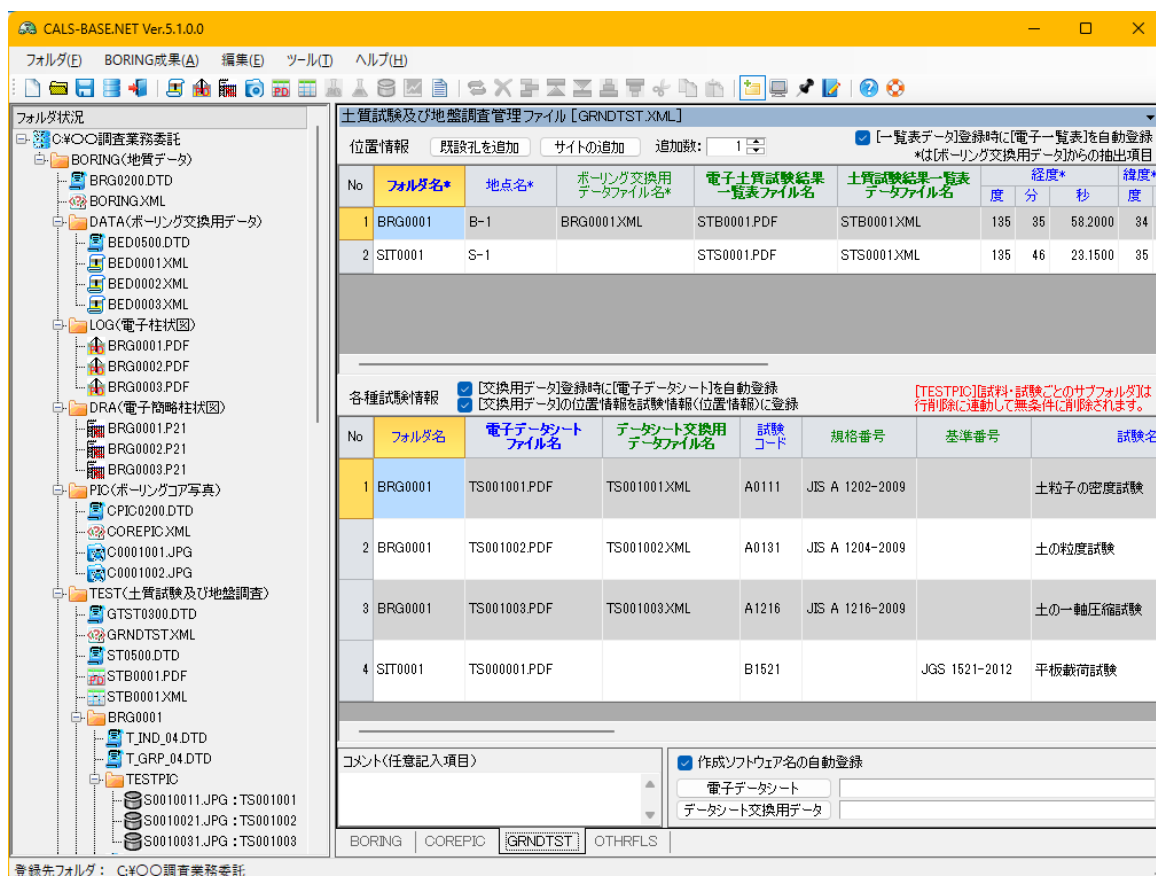
## 1.1. CALS-BASE.NET (Ver.5) とは…

CALS-BASE.NET (Ver.5) は「地質・土質成果電子納品要領：令和 8 年 2 月」に規定された電子納品成果を作成するための支援ツールであり、主な支援項目は以下の 2 点となります。

- 各成果品ファイルを正しいフォルダに配置するよう支援します。
- 各管理ファイルの作成を支援します。

本バージョン (Ver.5.0) は、「地質・土質成果電子納品要領：令和 8 年 2 月」のうち以下の編に対応しており、BORING (地質データ) フォルダの作成を支援します。

- 第 2 編 ボーリング柱状図編
- 第 5 編 ボーリングコア写真編
- 第 6 編 土質試験及び地盤調査編
- 第 7 編 その他の地質・土質調査成果編



また、次バージョン (Ver.5.1) では、「地質・土質成果電子納品要領：令和 8 年 2 月」のうち以下の編への対応として、DRAWING (図面) フォルダの作成を支援する予定です。

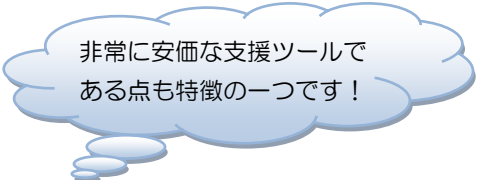
- 第 3 編 地質平面図編
- 第 4 編 地質断面図編

更に次々バージョンではユーザからのニーズに応じて、REPORT (報告書) フォルダおよび INDEX\_D.XML (業務管理ファイル) 作成支援を行う事で、「土木設計業務等の電子納品要領：令和 8 年 2 月」に規定された電子納品成果を作成するための支援ツールとしての拡張を予定しています。

Ver.1 シリーズにおいて・・・  
 後続 Ver.リリースが遅れましたこと、お詫びします。

## 1.2. CALS-BASE.NET の特徴

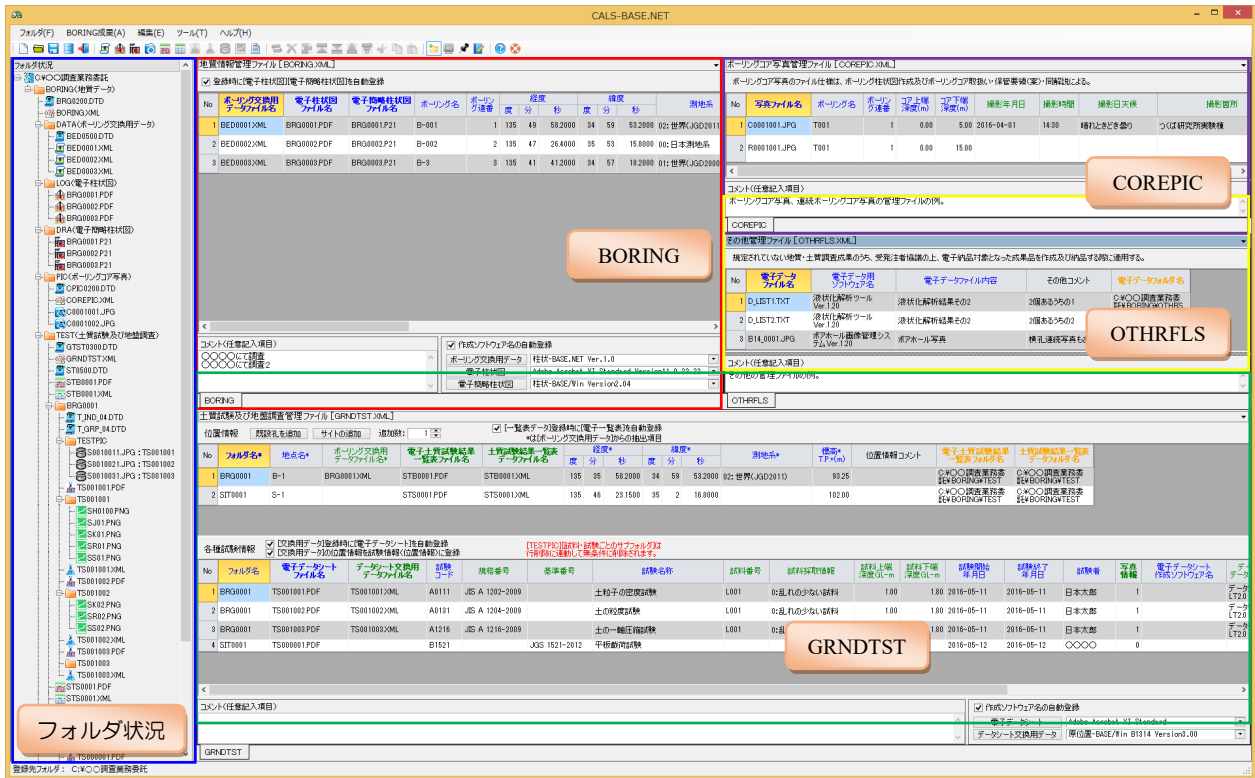
本節では、CALS - BASE.NET の主要な特徴について説明します。



### 1.2.1. 高い視認性による高効率と高精度

CALS-BASE.NET は、「成果品ファイルの登録状況が一目で把握可能なフォルダ状況（ツリービュー）」と「各管理ファイルの作成状況が一目で把握可能な一覧表」とで構成されています。

各管理ファイル一覧表は自由にレイアウト可能なタブ上に配置されており、特に大画面 PC において高い視認性を発揮することで、電子納品成果作成における高い効率性と精度とを維持することが可能となります。



### 1.2.2. 詳細なチェック機能

電子納品成果を作成する際、各成果品ファイルの指定状況および各管理ファイルの作成状況に対し詳細なチェックを行い、結果を登録ログとして表示します。

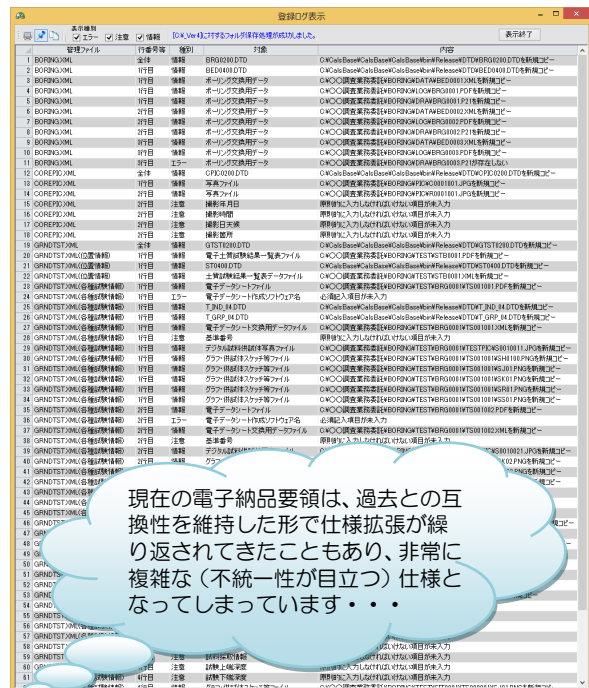
登録ログはエラー・注意・情報に分かれており、最終成果作成時点ではエラー原因の解消と、特別な理由を除く注意原因の解消により、エラーの無い納品成果の確実な作成が可能となります。

### 1.2.3. 納品エラーを防ぐための各種制限機能

電子納品成果は「(指定されたファイル名規則による)各成果品ファイルを指定されたフォルダに登録し、対応する管理ファイル(XML形式)を作成する」ことで成立します。

フォルダへの登録はファイルエクスプローラにより、管理ファイル作成は(XML形式=テキストファイルのため)メモ帳やエディタにより(理屈上では)可能ですが、多種多様な成果品ファイルを多様な登録規則に応じて配置し、多様な規則に応じた管理ファイルをミスなく作成するのは「至難の業」と言えるくらい難しく手間のかかる作業となります。

ファイルエクスプローラやメモ帳などは自由度が高すぎる(=なんでもできる)事が、理屈上では可能だが現実的には不可能との状況を生み出しており、CALS-BASE.NET(などの電子納品成果作成支援ツール)は「ファイル



名の命名規則」に従わないファイルの登録制限や、登録種別毎のファイル指定による登録先フォルダの制限など、電子納品要領に従わない状況を生まないように各種制限機能を設けることで、納品成果の精度を維持します。

また、各種成果品ファイルは複雑に関連付けられており（詳細は「1.4.電子納品成果の関連付けと登録順序」を参照）、関連性を表現するためのフォルダ構成・管理ファイル項目を持つため、この関連性を維持するための機能提供も支援ツールの重要な役割となっています。

### 命名規則に応じたリネーム機能は持っていません=関連付け作業が多くの指定で不要となります！

電子納品要領に規定されている「ファイル名の命名規則」は一意性を重視した「KEY+数値.拡張子」形式が多く、視認性の高いものではありません。その為、データ作成時には別の視認性が高いファイル名（例えば〇〇業務報告書.拡張子）で管理しており、電子納品成果作成時点で「ファイルの命名規則」に従ったリネーム（例えば REPORT01.PDF）を実施されているものと思います。

CALS-BASE.NET での成果登録機能開発に際し、「ファイルの命名規則」に従ったリネーム機能を実装することも検討しましたが、結果的にはリネーム機能を実装せず、ユーザが前もってリネームしたファイルを登録する仕様とさせて頂きました。

前述したように、ファイル名をフリーにしてしまう事で自由度が高くなり誤ったデータ登録を防げなくなる確率が上がってしまう事を選択するため、命名規則に従ったファイルを登録することで得られる以下のような利便性を得るための仕様となります。

- 例えば、ボーリング交換用データ⇔電子柱状図⇔電子簡略柱状図などファイル間の**関連付け作業が不要**となる。
- 例えば、ボーリング交換用データを指定することで電子柱状図・電子簡略柱状図の**自動登録が可能**となる。

## 1.2.4. プログラムランチャー機能

成果品ファイルの作成元アプリケーションを素早く起動する**プログラムランチャー機能**があります。

電子納品成果ファイルの多くが XML や PDF 等の同一ファイル形式であるため、ファイルエクスプローラ等の拡張子毎のランチャー機能は有効ではありませんが、CALS-BASE.NET では**作成ソフトウェア毎に起動アプリケーションを指定できる**ため、下図に示すように同一 XML 形式のデータシート交換用データ毎に起動アプリケーションの切替が可能です。

ボーリング交換用データやデータシート交換用データなど XML 形式の成果品ファイルの登録により、管理ファイルの多くの項目が自動的に登録されます。これらの項目に対し修正を行う場合は管理ファイルの編集のみでなく、元データの修正も併せて行う必要があり、成果品ファイルの作成元アプリケーションを素早く起動し編集状態に置く本機能は、電子納品成果作成における高い効率性と精度維持に貢献します。

データシート交換用データの登録により、管理ファイルの多くの項目が自動的に登録される。

作成ソフトウェア毎に起動アプリケーションを指定する。

ツリービューで開くファイルをクリックし、コンテキストメニューから起動する。

作成ソフトウェアの指定補助機能

同一 XML 形式のデータシート交換用データ毎に起動アプリケーションの変更が可能

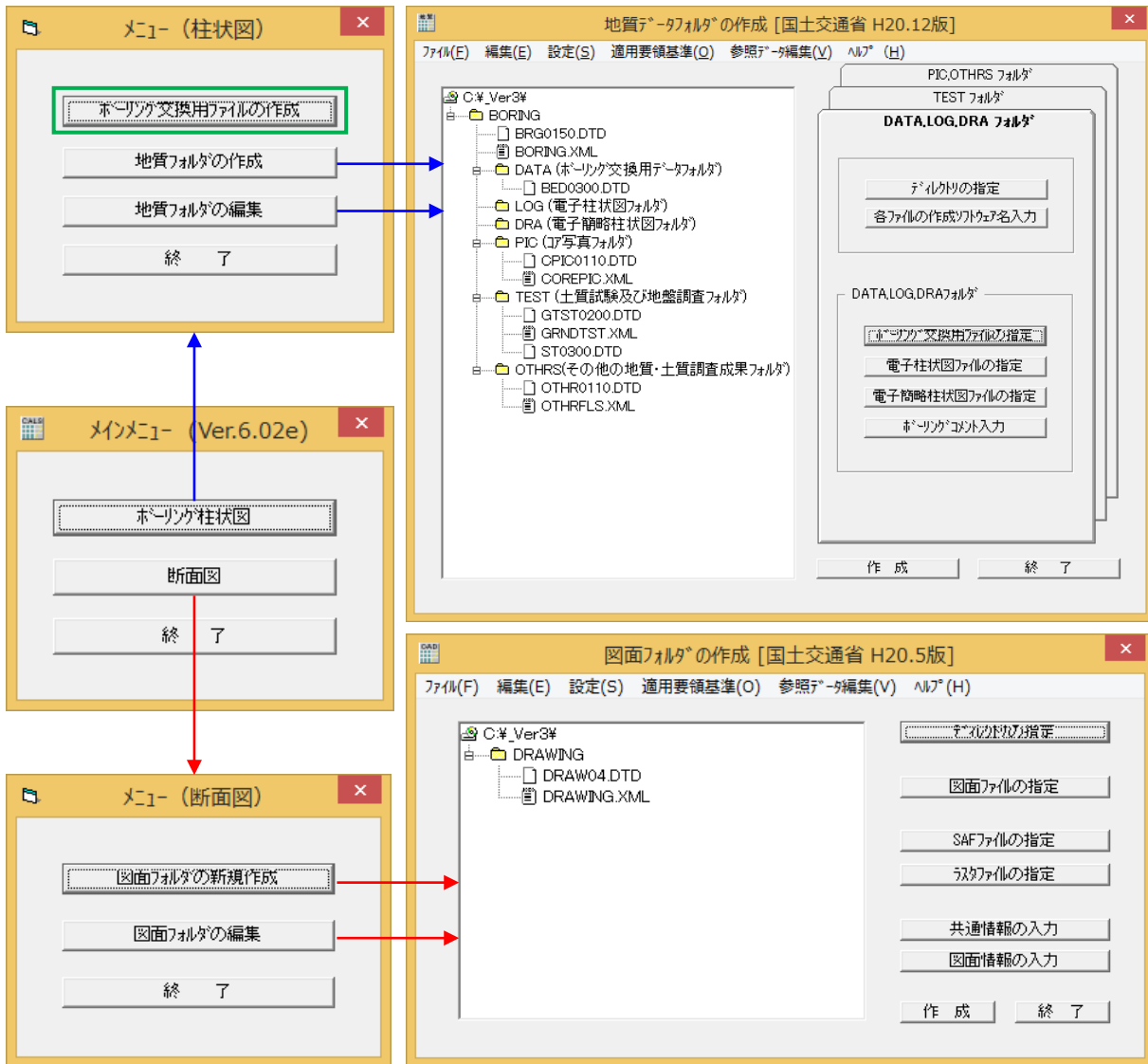
No	フォルダ名*	地名*	ボーリング交換用データファイル名*	電子土質試験結果一覧表ファイル名*	土質試験結果一覧表データファイル名*	経度*	緯度*	測地系*	標高* TP+(m)	位置情報コメント
1	SIT0001					135 35 58.1000	34 59 53.1000	02:世界(JGD2011)	0.23	
2	SIT0002					135 35 58.1000	34 59 53.1000	02:世界(JGD2011)	0.23	
3	SIT0003					135 35 58.1000	34 59 53.1000	02:世界(JGD2011)	0.23	
4	SIT0004					135 35 58.1000	34 59 53.1000	02:世界(JGD2011)	0.23	

No	フォルダ名	データシート交換用データファイル名	試験コード	基準番号	試験名称	試験上端深度 QL-m	試験下端深度 QL-m	試験開始年月日	試験終了年月日	試験者	写真情報	データシート交換用データ作成ソフトウェア名
1	SIT0001	TS000009.XML	B1431	JGS 1431-2012	ボーリングコーン貫入試験	0.00	3.50	2016-06-27	2016-06-27	日本太郎	0	原位置-BASE/Win B1431 Version3.00
2	SIT0002	TS000010.XML	B1433	JGS 1433-2012	簡易動的コーン貫入試験	0.00	1.70	2016-05-01	2016-05-01	日本太郎	0	原位置-BASE/Win B1433 Version3.00
3	SIT0003	TS000014.XML	B1314	JGS 1314-2012	準孔を利用した透水試験	4.00	4.50	2016-07-19	2016-07-19	日本太郎	0	原位置-BASE/Win B1314 Version3.00
4	SIT0004	TS000022.XML	B1521	JGS 1521-2012	平板載荷試験	0.00	0.50	2016-07-17	2016-07-17	日本太郎	0	原位置-BASE/Win B1521 Version3.00

### 1.3.CALS コンバータとの機能比較

CALS-BASE.NET は柱状-BASE/Win にバンドルして提供しています CALS コンバータ (Ver.5/6) の後継製品となります。

下図は CALS コンバータ Ver.6 の主要画面ですが、青矢印 (→) は CALS-BASE.NET Ver.1.0 のサポート範囲、赤矢印 (→) は CALS-BASE.NET Ver.2.0 のサポート範囲 (予定) となります。



[ボーリング交換用ファイルの作成]機能は、柱状-BASE/Win の.BOR 形式あるいは岩盤柱状-BASE/Win の.GAN 形式をボーリング交換用データ (CALS3) に変換する機能ですが、CALS-BASE.NET では柱状-BASE.NET の出力形式が既にボーリング交換用データ (CALS4) であるため、本変換の後継機能は割愛しています。

また、CALS コンバータでは「土質試験結果一覧表データ」ファイル (XML 形式) を指定 (あるいは入力・編集) することで、「電子土質試験結果一覧表」ファイル (PDF 形式) を自動作成していましたが、CALS-BASE.NET では自動作成方式を継承しておらず、別途作成された「土質試験結果一覧表データ」「電子土質試験結果一覧表」ファイルを指定する方式となっています。

この「土質試験結果一覧表データ」「電子土質試験結果一覧表」ファイルの作成は、(今後、公開予定の) 土性-BASE.NET および Kiso-Cloud : 土質試験データ作成サービス (Ver.4) を使って作成頂くことを想定しています。

土性-BASE.NET (一覧表作成機能限定版) については、柱状-BASE.NET (販売版) 購入ユーザーには無償提供を行います。また、柱状-BASE.NET (レンタル版) 利用ユーザーにはレンタル費用の増額無しで利用頂くことが可能となります (公開予定は現在のところ 2018 年 1 月末を予定しています)。

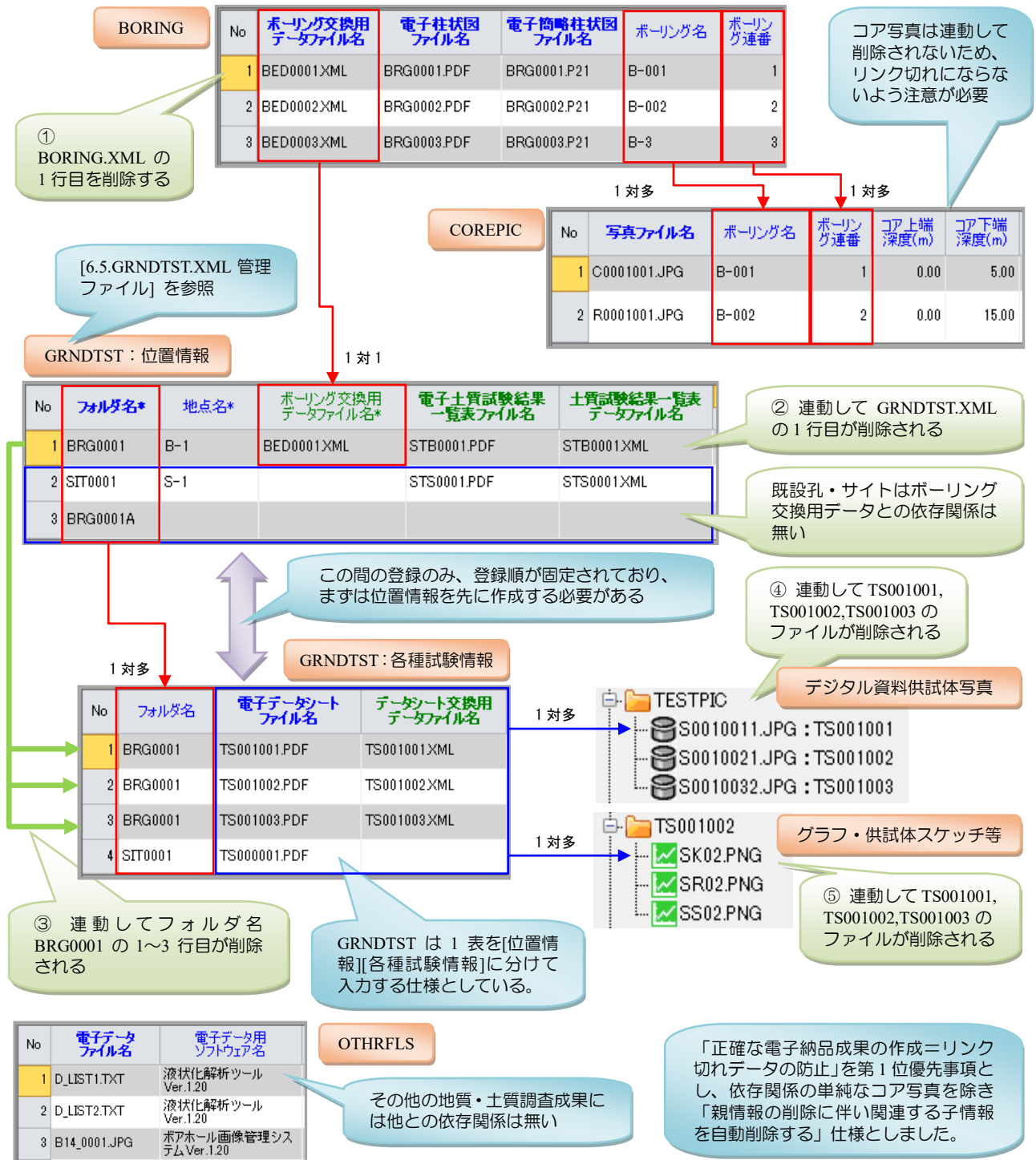
土性-BASE.NET では「土質試験結果一覧表 (基礎地盤)」だけでなく「土質試験結果一覧表 (材料)」も作成可能とします。

## 1.4. 電子納品成果の依存関係と登録順序

[BOIRNG]フォルダ以下に登録する成果品ファイルの多くに依存（親子）関係があります。

特に[TEST]フォルダ以下の成果品ファイルには複雑な依存（親子）関係があります。

この依存（親子）関係を把握し「親→子の順に登録する」ことで、効率的かつ解り易い電子納品成果作成が可能となります。



また上図の①～⑤に示すように、親のデータ（レコード）を削除すると関連する子のデータ（レコード）が削除されるため、成果品登録と比較して、成果品削除処理は「より慎重な実施」が必要です（[6.5.3.行削除]を参照）。

このため、成果品ファイル（XML 形式）の修正に伴う管理ファイルの項目更新を行いたい場合は、[削除]→[再登録]ではなく、[編集]-[管理項目の再登録]機能を使うことで依存関係を意識する必要は無くなります（[6.5.1.管理項目の再登録]を参照）。

## 1.5. 電子納品成果作成の流れ

CALS-BASE.NET を使った電子納品成果作成の主な流れについて説明します。

- ① [前処理]前もって電子納品成果ファイルを作成し、電子納品要領の[ファイル名の命名規則]に従いリネームしておきます。
- ② CALS - BASE.NET を起動します (2.1.3.システムの起動)。あるいは**新規[電子納品]フォルダの作成**をクリックします (4.1.新規[電子納品]フォルダの作成)。
- ③ 電子納品成果を指定します (5.電子納品成果の指定)。  
特にボーリング交換用データ・データシート交換用データは、指定に伴い各管理ファイルの管理項目を抽出してセットするため、管理ファイル作成に先立って指定されることをお勧めします。  
**!** 管理ファイルの各セルを入力後にボーリング交換用データ・データシート交換用データを指定した場合、入力データが上書きされてしまいます。
- ④ 管理ファイルを作成します (6.管理ファイルの作成)。  
交換用データ指定により埋まらなかったセルの内容をキー入力します。  
**!** 交換用データから埋められたセルに修正が必要な場合はキー入力により修正が可能ですが、交換用データの同一項目のデータが不整合とならないように、交換用データの修正も必要です。  
まずは交換用データの修正を行い、[管理項目の再登録]機能を利用することで、管理ファイルと交換用データとのデータの不整合を防止することが可能です (6.5.1.管理項目の再登録)。
- ⑤ **[電子納品]フォルダを指定して保存**します (4.4. [電子納品]フォルダを指定して保存)。
- ⑥ 登録ログの表示を確認し、エラーがあれば修正します (4.6.[電子納品]フォルダ登録時のチェック機能)
- ⑦ CALS - BASE.NET を終了します (4.5.アプリケーションの終了)。

## 1.6. 他の電子納品支援ツールとのやり取り

以下の注意点は、指定途中の状態を維持するための特別な機構を持たない仕様の CALS-BASE.NET と、中間ファイルなどの特別な機構を持つ他の支援ツールとの仕様上の違いによるものであり、**指定が完了した状態で引き継ぐ場合には、両方向とも特別に注意することはありません。**

### 1.6.1. CALS-BASE.NET→他の支援ツール

本 Ver.が[BORING]フォルダ以下のみの支援であるため、他の支援ツールに設定を引き渡す場合、

**!** 管理ファイルの必須入力項目をブランクのまま他の支援ツールに引き継がないように注意して下さい。

CALS-BASE.NET では指定途中でも管理ファイルの入出力が行えるよう、必須入力項目をブランクのままでも (出力時にエラーメッセージは表示しても) 許容して動作しますが、他の支援ツールにおいてエラーメッセージを表示し、そこで管理ファイルの読み込みを中止してしまうものがあります。

また CLAS-BASE.NET では電子納品成果の読み込みをルートフォルダ指定により実施しますが、他の支援ツールにおいてフォルダではなく INDEX\_D.XML (業務管理ファイル) 指定となるものがあるため、[電子納品]フォルダ指定において空の INDEX\_D.XML (実際には必要最低限のタグが設定されている) と INDE\_D04.DTD を、指定されたフォルダ (ルートフォルダ) にコピーします。

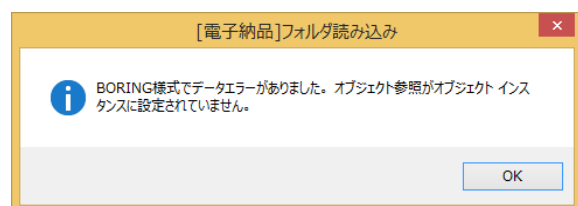
### 1.6.2. 他の支援ツール→CALS-BASE.NET

CALS-BASE.NET では指定が途中あるいは不完全であっても、出力する管理ファイル (XML) は DTD 構造に違反しない状態が常に保たれています。

しかし他の支援ツールによっては、指定が途中あるいは不完全な状態の場合に **DTD 構造に違反した管理ファイル (XML) が出力される事があります** (関連付け作業が完了しない状態で電子納品成果作成を行った場合等の現象のようです)。

このような DTD 構造に違反した管理ファイルを読込みすると、当然ですがエラーメッセージを表示し読み込みを中止します。

**!** 指定途中の電子納品成果を CALS-BASE.NET に引き継いだ場合、右メッセージが表示される場合は、指定が途中あるいは不完全と考えられます。



## 2. インストールガイド

本章では[CALIS-BASE.NET]のシステム入手～インストール（アンインストール）～起動（認証）～終了について説明します。

### 2.1. レンタル版の利用

レンタル版の利用方法について説明します。以下の説明と共に、Kiso-Cloud の「〇〇-BASE のレンタル運用」マニュアルも確認して下さい（<https://kiso-cloud.com/ggs/Manual/ManualBaseSrv.pdf>）。

#### 2.1.1. ダウンロードおよびインストール

**Kiso-Cloud** の[〇〇-BASE]レンタル運用ページから、使用するアプリケーションをダウンロードし、運用する PC にインストールします。

- ① Kiso-Cloud にログインし、メインメニューから[〇〇-BASE]レンタル運用をクリックします。
- ② [〇〇-BASE]レンタル運用画面で、[CALIS-BASE.NET Ver.5]をクリックします。
- ③ [保存]をクリックします。
- ④ [フォルダーを開く]をクリックします。
- ⑤ ダウンロードファイルを右クリックし[開く]を選択します（zip 解凍でも大丈夫です）。
- ⑥ [setup.exe]を起動し、インストールを開始します。
  - 実際の操作方法は、使用するブラウザおよびバージョンにより若干異なります。
  - setup.exe 起動後、Wizard の指示に従いインストールを行います。

● Google Chrome を利用した場合は、以下の警告が表示される場合がありますが、▼→[継続]をクリックして下さい（提供直後は DL 数が少なく Chrome の勝手な判断を止められません）。

一般的にダウンロードされておらず、危険を及ぼす可能性があります。

継続(K) 詳細(L)

破棄

ソフトウェアの名称	ソフトウェアの内容	Ver.	最新版Rel	ファイル容量	マニュアル
[登録PC即時解除]機能	Kiso-Cloud認証システム	1.0.1.8	2020/05/25	約1MB	[こちら]
柱状-BASE.NET V.5.1.2.0 V.1.0.2.29	ボーリング柱状図作成 電子納品要領(R8/2)対応	5.1.2.0 1.0.2.29	2026/05/04 2020/03/18	約29MB 約33MB	[こちら] [こちら]
土性-BASE.NET V.5.1.0.0 V.2.1.0.0	土質試験結果一覧 土性図作成システム	5.1.0.0 2.1.0.0	2026/05/15 2022/07/10	約18MB 約19MB	[こちら] [こちら]
断面-BASE.NET	断面図・柱状一覧図作成 電子納品要領(H28/10)対応	1.1.0.0 1.0.0.12	2024/04/29 2022/09/28	約11MB 約10MB	[こちら] [こちら]
CALIS-BASE.NET V.5.1.0.0 V.1.0.1.4	電子納品成果作成支援ツール 電子納品要領(R8/2)対応	5.1.0.0 1.0.1.4	2026/05/27 1.0.1.4	約77MB 約77MB	[こちら] [こちら]
LIQ.NET	液状化簡易判定サービス	2.0.0.1			
数量柱状図作成システム	数量柱状図・実施数量表作成	1.0.0.3			
柱状-BASE/Win	JACIC様式土質柱状図作成	6.01			
断面-BASE/Win	カラー断面図作成	6.03i			
土性-BASE/Win	土性、相関、深度分布図作成	4.00d			
岩盤柱状-BASE/Win	JACIC様式岩盤柱状図作成	6.01			

CalsBaseNet5.zipのダウンロードが完了しました。

フォルダーを開く(O) フォルダーを開く(E) ダウンロードの表示(V)

ダウンロード

CalsBaseNet5.zip

2026/05/26 16:26 圧縮(zip形式) 77... 18,659 KB

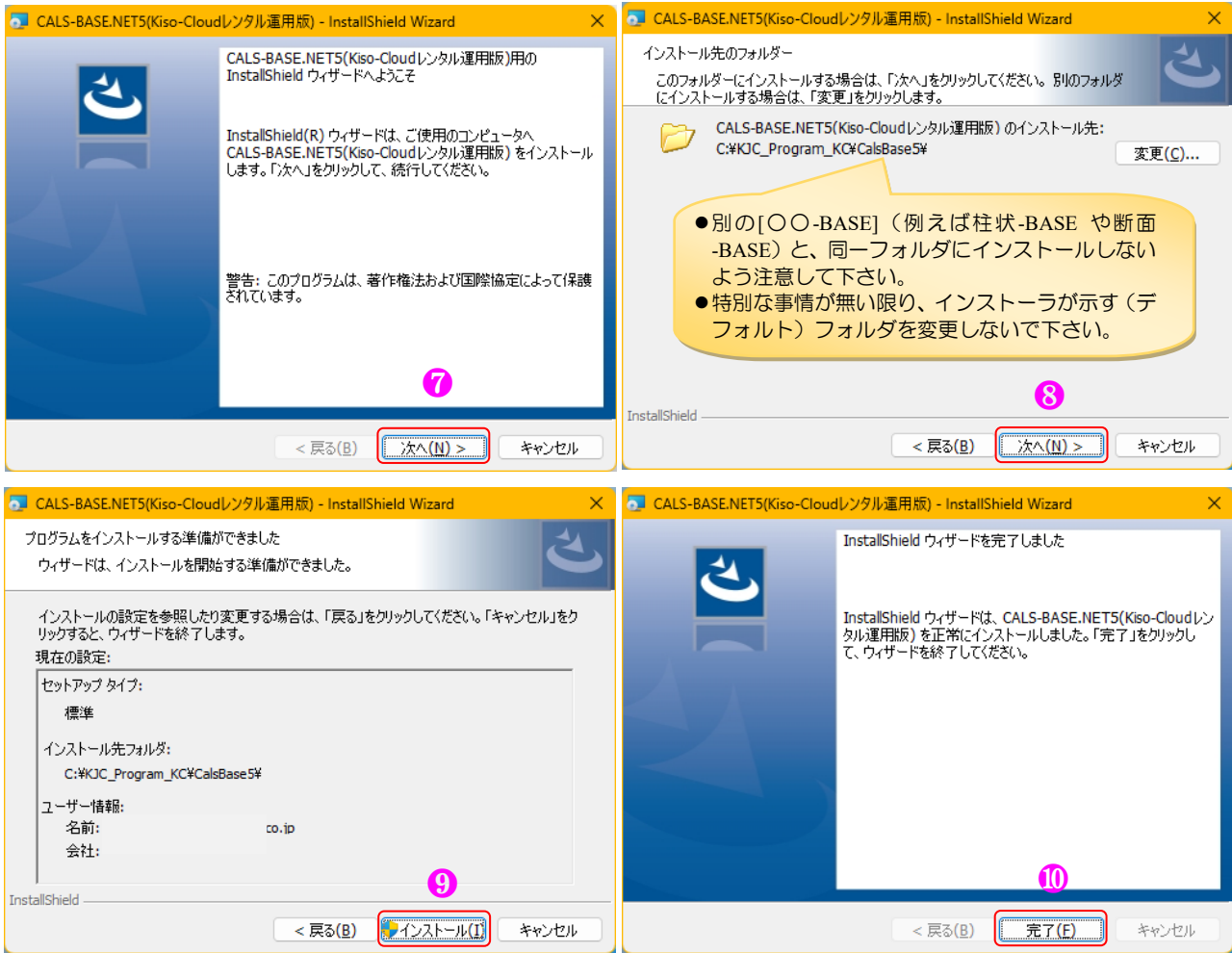
2個の項目 1個の項目を選択 18.2 MB

CalsBaseNet5.zip

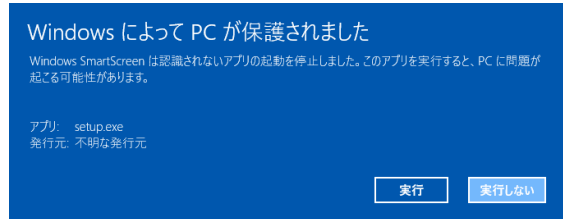
setup.exe

アプリケーション 18,659 KB 無

1個の項目 1個の項目を選択 18.9 MB



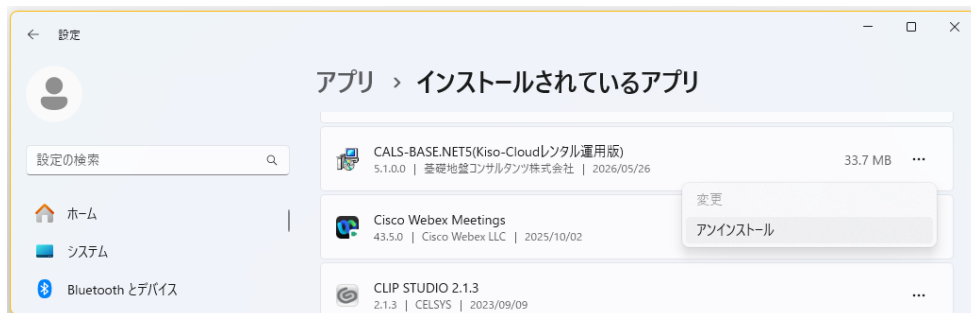
- インストールする PC の環境により（特に最新 OS 利用の場合）、セキュリティ警告が表示される場合がありますが、[実行][登録]などを選択してインストール作業を進めます。
- 再インストールの場合は、一旦アンインストールしてからインストールします。



### 2.1.2. アンインストール

アンインストールは、使用 OS により若干、操作方法が異なります。

- ① コントロールパネルの [プログラムと機能] ダイアログから[CALS-BASE.NET]をクリックし、[アンインストール]をクリックすることにより実施します。
- ② あるいは、コントロールパネルの [プログラムの追加と削除] ダイアログから[CALS-BASE.NET]をクリックし、[削除]ボタンを押すことにより実施します。
- ③ Windows11 では、[設定]→[システム]→[アプリと機能]から[CALS-BASE.NET5]をクリックし[アンインストール]→[アンインストール]をクリックすることにより実施します。



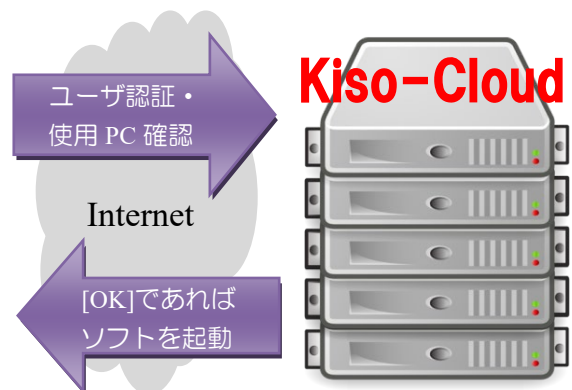
### 2.1.3. Kiso-Cloud 認証システム

レンタル版の場合、システム起動直後に Kiso-Cloud 認証システムにより正規ユーザであることの認証を行います (2017/08~Kiso-Cloud 認証システムが新しくなりました: Ver.1.0.1.\*)。

#### (1) 起動時認証

[CALC-BASE.NET]起動時に **Kiso-Cloud** に対して認証処理を行うため、**Internet 接続環境が必要**です。

- ① OO-BASE 起動時に **Kiso-Cloud** 認証画面が表示されます。
- ② **Kiso-Cloud ID** (ユーザ名・パスワード) をキー入力します。
- ③ 次回起動時に保存 ID を利用する場合は[認証成功時のユーザ名/パスワードを記憶]をチェックします。
- ④ [持ち出し処理]を行う場合、持ち出し日数 (1~14) を選択します。
- ⑤ [認証]をクリックします…認証を通過するとOO-BASE を起動します。
- ⑥ OO-BASE 起動を中止する場合は[キャンセル]をクリックします。



- Kiso-Cloud サーバへの情報送信上の問題がある場合は、まず貴社 (貴機関) のネットワーク管理者にご相談を頂き、解決しない場合は Kiso-Cloud 事務局宛にご相談下さい。
- セキュリティポリシー上、Kiso-Cloud への情報送信が許されない場合は、[レンタル運用]版はご使用になれません。

#### (2) ウィルス対策ソフトへの対応

**Kiso-Cloud** 認証システムでは、以下の情報を **Kiso-Cloud** サーバに送信します(これ以外の情報は送信しません)。

- ① ユーザ名 (入力値)    ② パスワード (入力値)    ③ 持ち出し日 (選択値)
- ④ コンピュータ名    ⑤ 起動システム名称 (CALC-BASE.NET)

この「ローカルプログラムからインターネットサーバへのデータ送信」動作が、使用しているウィルス対策ソフトの種類および設定により、不正アプリケーションであると認識されてしまう場合があります。

この場合、ウィルス対策ソフトにより Kiso-Cloud サーバとの通信をブロックするか警告が出ますが、通信をブロックしない設定として下さい。

指定方法はウィルス対策ソフトにより異なりますが、以下に 1 例として「AVG アンチウイルス 無料版」での指定方法を示します。

① Kiso-Cloud 認証システムを誤って不正プログラムとして検出

② [追加のオプション]をクリック

③ [許可]をクリック

④ [例外プログラム]として許可

### (3) 動作中認証

動作中は定期的に認証が行われます（1 度起動すると認証操作なしで、使い続けることができます）。

この際、起動時認証時に入力された **Kiso-Cloud ID** を利用して自動的に認証を行うため、ユーザが意識する必要はありませんが、Internet 接続環境が遅い（悪い）場合は認証処理に時間がかかるため、認証処理中はシステムの動作が遅くなる可能性があります。

**動作中認証に失敗すると[名前を付けて保存]処理を実施後、システムを強制終了するため、システム動作中は必ず Internet 接続環境を維持して下さい**（認証後に Network ケーブルを外す、無線 LAN を切るなどできません）。

### (4) 持ち出し処理

動作 PC を Internet 接続環境のない現場に持ち出す、あるいは Internet 接続環境が安定しない場合は[持ち出し処理]を実施して下さい。操作は[1] 起動時認証 ④を参照下さい。

[持ち出し処理]中は、Kiso-Cloud 認証処理を行わないため上記ケースに対応しますが、以下の制限が発生します。

- 動作させる PC を変更することができません。
- Kiso-Cloud を解約することができません。

※ [持ち出し処理]中は[持ち出し終了]ダイアログが表示されなくなりました（Ver.1.0.1.\*～）。

※ 後述する[登録 PC 即時解除]機能により、**[持ち出し処理]中でも解除が可能**となりました。登録 PC を解除すると自動的に[持ち出し処理]も解除となります。

※ **Kiso-Cloud** がメンテナンス等で停止する場合は、前もってメールにてお知らせするため、停止前に停止期間 + α で[持ち出し処理]を実施して下さい。

### (5) 緊急避難措置（Ver.1.0.1.\*～）

緊急避難措置とは、Kiso-Cloud サーバ障害あるいはネットワーク障害等により、Kiso-Cloud サーバと通信ができない場合に（**一度だけ**）7 日間の[持ち出し処理]に移行することで、Kiso-Cloud 認証を回避して利用を続けられる措置を言います。

適用には以下の条件を満たす必要があります、満たす場合は認証(緊急避難措置)ダイアログが表示されます。

- 使用 PC が、過去に正しく認証された経験を持つ（緊急避難措置は、直近の正しく認識されたアカウント ID で実施されるためです）。
- 最終認証後に、(6)に示す[登録 PC 解除]処理を実施していない。

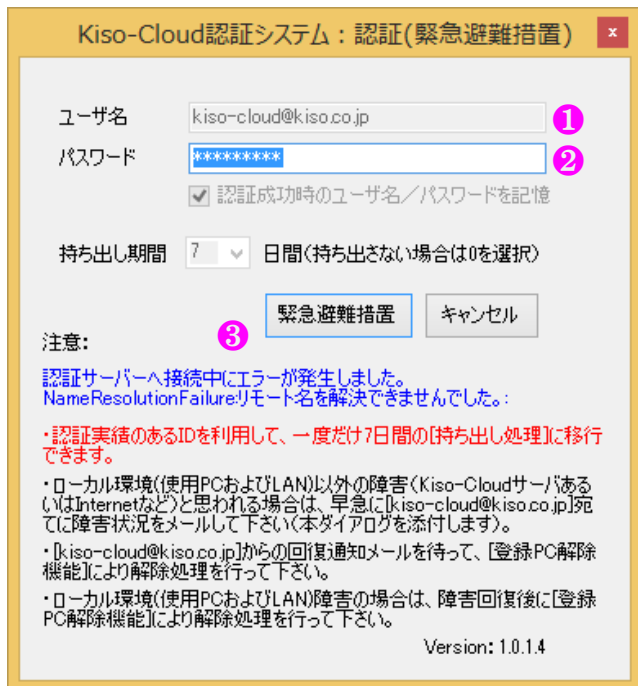
レンタル運用を正しく運用している状態で障害が発生した場合は、上記条件を満足するため、緊急避難措置が適用されます。

① ユーザ名には、直近の正しく認識された **Kiso-Cloud ID** が表示され変更できません。

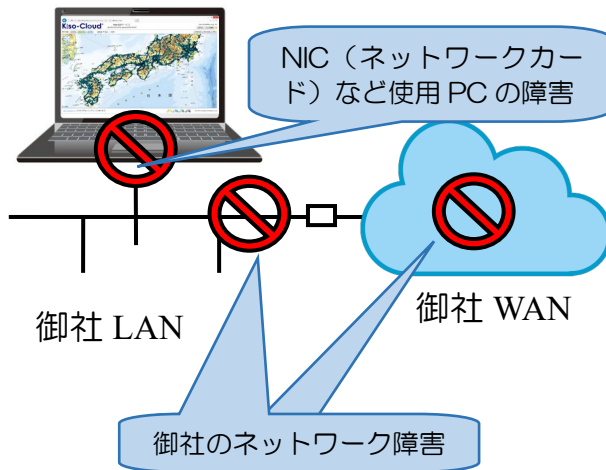
② 対応するパスワードを入力します（認証時に[認証成功時のユーザ名/パスワードを記憶]がチェックされていた場合はパスワードも\*表示されます）。

③ [緊急避難措置]をクリックすると、Kiso-Cloud 認証を回避して 7 日間の[持ち出し処理]に移行します。

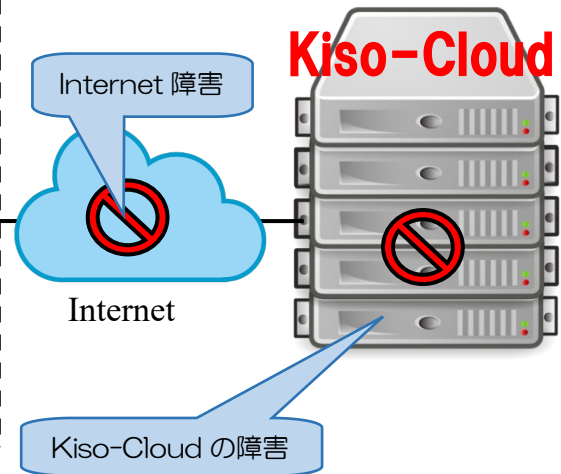
- ローカル環境(使用 PC および LAN)以外の障害(Kiso-Cloud サーバあるいは Internet など)と思われる場合は、早急に[kiso-cloud@kiso.co.jp]宛てに障害状況をメールして下さい（本ダイアログを添付します）。
- [kiso-cloud@kiso.co.jp]からの回復通知メールを待って、[登録 PC 解除機能]により解除処理を行って下さい。
- ローカル環境(使用 PC および LAN/WAN)障害の場合は、障害回復後に[登録 PC 解除] 機能により解除処理を行って下さい。



- ① ローカル環境(使用 PC および LAN/WAN)障害の場合は、御社の情報システム部門にご相談のうえ、障害回復をお願いします。
- ② 障害回復後、[登録 PC 解除機能]により解除処理を行って下さい。



- ① ローカル環境障害以外(と想定される)場合は、早急に[kiso-cloud@kiso.co.jp]宛てに障害状況をメールして下さい。
- ② [kiso-cloud@kiso.co.jp]からの回復通知メールを待って、[登録 PC 解除機能]により解除処理を行って下さい。



## (6) [登録 PC 解除]処理

「〇〇-BASE の動作 PC を変更する」ためには、[登録 PC 解除]処理を行う必要があります。

- ① Kiso-Cloud にログインし、メインメニューから [〇〇-BASE] レンタル運用をクリックします。
- ② [登録 PC 即時解除]機能をクリックし、インストーラをダウンロードしてインストールします(インストール方法の詳細は、[3.〇〇-BASE]のダウンロードおよびインストールを参照)。
- ③ レンタル運用対象となるシステムが起動していると解除処理ができないため、前もってシステムを終了しておきます。
  - 〇〇-BASE には販売版とレンタル版とがありますが、本システムからはレンタル版であることが分からないので、販売版起動中でも警告が出ます。申し訳ありませんが販売版も一旦終了願います。
- ④ メニュー[地質調査ソフトウェア (Kiso-Cloud レンタル運用)]-[登録 PC 即時解除]をクリックします。→[登録 PC 即時解除]ダイアログが表示されます。
  - ウイルス対策ソフト等により通信をブロックする警告が出た場合、通信をブロックしない設定とします(4.2 参照)。
- ⑤ 解除すべき PC に紐付いている Kiso-Cloud ユーザ ID ([ユーザ名(メールアドレス)] [パスワード]) をキー入力し、[登録 PC 解除]をクリックします。

- 予約解除：Web サービスによる[登録 PC 解除]処理(操作日の翌朝実施されるため、同一日以内での動作 PC 変更は不可能)は 2017/07 末で終了となりました。
- 「〇〇-BASE の動作 PC を直ぐに変更したい!!」とのご要望を受け、専用プログラムによる即時解除機能を 2017/05~追加しました。また、2017/08~は持ち出し処理中でも解除可能となるよう機能改良しました。

ソフトウェアの名称	ソフトウェアの内容	Ver.	最新版Rel	ファイル容量	マニュアル
[登録PC即時解除]機能	Kiso-Cloud認証システム	1.0.1.4	2017/08/01	約2MB	[こちら]
柱状-BASE.NET(製品版)	地質・土質成果電子納品要領 (H28/10)対応	1.0.2.0	2017/08/01	約25MB	[こちら]
柱状-BASE/Win	JACIC様式土質柱状図作成	6.01	2016/06/11	約31MB	[こちら]
断面-BASE/Win	カラー断面図作成	6.03	2015/12/07	約10MB	[こちら]
土性-BASE/Win	土性、相関、深度分布図作成	4.00d	2015/12/19	約10MB	[こちら]
土性-BASE-CALS4コンバータ	土質試験結果一覧表データ	1.0.0.1	2017/07/09	約12MB	[こちら]
岩盤柱状-BASE/Win	JACIC様式岩盤柱状図作成	6.01	2015/12/19	約33MB	[こちら]
原位土-BASE/Win (平成28年10月：電子納品要領対応)					
ソフトウェアダウンロード記録	結果図・記録用紙	6.00	2017/04/09	約12MB	[こちら]
オレンジ式二層管コーン貫入試験	結果図・記録用紙	5.00	2017/04/09	約12MB	[こちら]
孔内水平載荷試験 [TYPE-A]	LLT結果表・作図	4.00	2017/04/09	約10MB	[こちら]
孔内水平載荷試験 [TYPE-B]	プレシオメータ結果表・作図	4.00	2017/04/09	約10MB	[こちら]

地質調査ソフトウェア (Kiso-Cloud)

登録PC即時解除

土性-BASE CALS4コンバータ (Kis...

Kiso-Cloud認証システム：登録PC即時解除

ユーザ名 kiso-cloud@kiso.co.jp

パスワード \*\*\*\*\*

コンピュータ名 HQPC0001

登録PC解除

注意:

- ・[即時解除]処理は登録PCからのみ実施可能です。
- ・持ち出し処理中でも[即時解除]可能となりました。

Version: 1.0.1.4

(7) エラーメッセージ

Kiso-Cloud 認証システムが表示する主なエラーメッセージおよび対処方法について下表に示します。

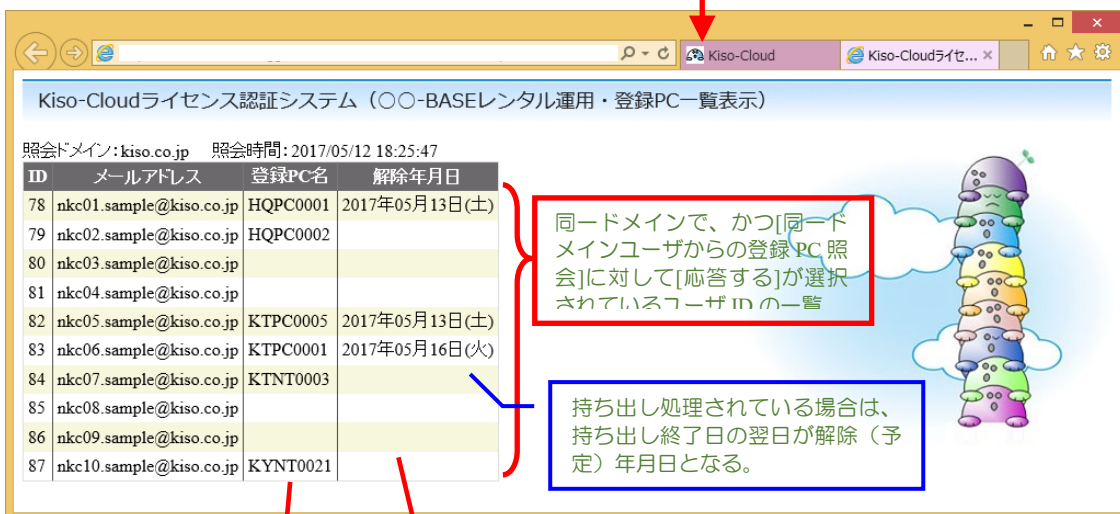
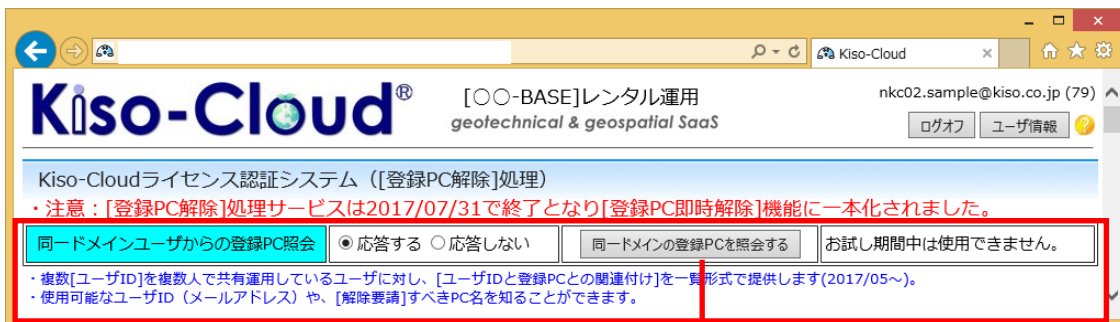
エラーメッセージ	対処方法	認証	解除
サーバとの時間差が5分以上あるため、認証処理を実施できません。	使用している PC の時間を正しく修正して下さい。	○	○
ユーザ認証 (ログイン) に失敗しました。	Kiso-Cloud の ID として正しいことを確認して下さい。	○	○
利用パターンが異なります ([パターン 2]あるいは[パターン 3]でなければ動作しません)。	有償サービス[パターン 2 あるいは 3]の申し込みが有効であることを確認して下さい。	○	○
別 PC (登録コンピュータ名) が登録されているため、本システムを実行できません。	表示されたコンピュータから[登録 PC 解除]処理を行い、解除後に再度、〇〇-BASE を起動および認証して下さい。	○	
指定されたユーザ ID では PC が登録されていないため、他 PC でのライセンス認証が可能です。	既に[登録 PC 解除]済みです。		○
登録 PC が異なります (即時解除)処理は登録 PC からのみ実施可能です)。	登録した PC とは別の PC から実施した場合に表示されます。		○

(8) [登録 PC 一覧表示]機能 (2017/05~)

複数[ユーザ ID]を複数人で共有運用しているユーザに対し、[ユーザ ID と登録 PC との関連付け]を一覧形式で提供します。使用可能なユーザ ID (メールアドレス) や、[解除要請]すべき PC 名を知ることができます。

提供可能な範囲は同一ドメインで、かつ[同一ドメインユーザからの登録 PC 照会]に対して[応答する]が選択されているユーザ ID となります。

- ① [同一ドメインユーザからの登録 PC 照会]に対して、自身の[ユーザ ID と登録 PC との関連付け]を開示する場合は[応答する]を、開示しない場合は[応答しない]をクリックします。
- ② [同一ドメインの登録 PC を照会する]ボタンをクリックすると、登録 PC 一覧[ユーザ ID と登録 PC との関連付け]が表示されます。



[登録 PC 名]欄がブランドのユーザ ID は、運用 PC を直ぐに変更

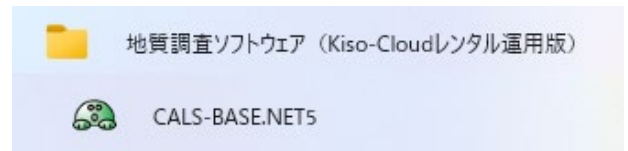
[登録 PC 解除]処理を実施済みのアカウントは解除 (予定) 年月日が表示される (暫定)。Web サービスによる[登録 PC 解除]処理は 2017/07 末で終了となった為、解除年月日は不要となります。

## 2.2. システムの起動および終了

### 2.2.1. システムの起動



[CALC-BASE.NET]の起動方法について以下に示します。

- ① Windows タスクバーの[スタート]ボタンをクリック
- ② [すべてのアプリ]あるいは[すべてのプログラム]をクリック
- ③ [地質調査ソフトウェア（Kiso-Cloud レンタル運用）]をクリック
- ④ [CALC-BASE.NET5]をクリック



### 2.2.2. システムの終了

終了するには、以下の3方法があります。

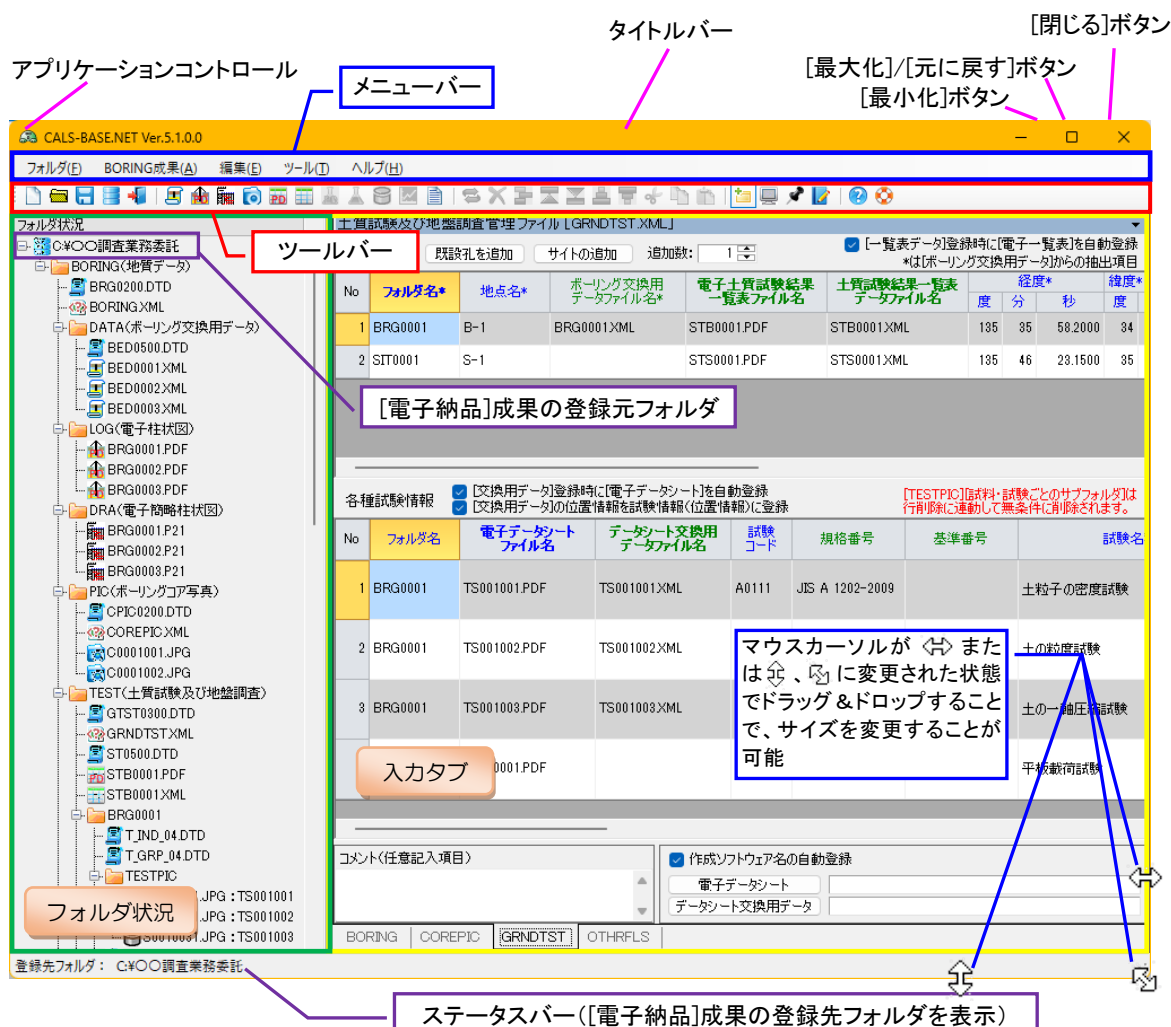
- ⑤ メニュー[ファイル]-[アプリケーションの終了]をクリック
- ⑥ アプリケーションコントロール (  ) をクリックし、[閉じる]をクリック
- ⑦ メインウィンドウ右上の[閉じる]ボタン (  ) をクリック
- ⑧ 編集データ破棄注意メッセージが表示された場合は、編集データを失いたくない場合は[キャンセル]を、問題ない場合は[OK]をクリック

## 3. 画面構成

[CALSBASE.NET]の画面構成について以下に示します。

### 3.1. メイン画面構成

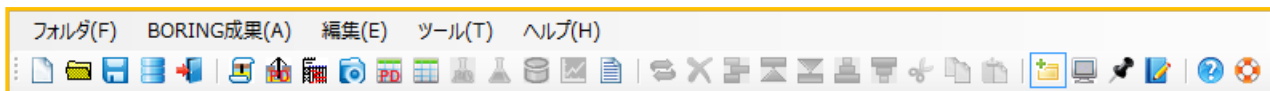
画面上部には「メニューバー」と「ツールバー」が、画面中央左には「フォルダ状況」・中央右には「入カタブ」が、画面下部には「ステータスバー」が表示されます。



#### メイン画面の各部名称

- ① アプリケーションコントロール  
メインウィンドウの状態を変更するコマンドが集められています。
- ② タイトルバー  
実行中のアプリケーションの名前[CALSBASE.NET]が表示されます。
- ③ メニューバー  
メニューの一覧が表示されます。メニューを開くとコマンドの一覧が表示され、ここから目的のコマンドを選択して実行します。
- ④ ツールバー  
操作頻度の高いコマンドについては、メニューからコマンドを実行する代わりにツールバーにあるアイコンをクリックしてコマンドを実行することができます（メニューと同一アイコンとなります）。
- ⑤ ステータスバー  
[電子納品]成果の登録先フォルダを表示します。
- ⑥ 入カタブ  
管理ファイル毎に管理項目を整理・表示します。
- ⑦ フォルダ状況  
電子納品成果ファイルの登録状況を表示します。

## 3.2. メニューおよびツールバー構成



メニュー	項目	細目	Tool	機能
ファイル(F)	新規[電子納品]フォルダ作成(N)...			新しく[電子納品]成果を作成する場合に選択します。
	[電子納品]フォルダを開く(O)... Ctrl+O			[電子納品]成果作成を継続する場合、もともとなる[電子納品]フォルダを指定します。
	[電子納品]フォルダを上書き保存(S) Ctrl+S			作成中の[電子納品]成果を登録先フォルダに上書き保存します。
	[電子納品]フォルダを指定して保存(A)			成中の[電子納品]成果をフォルダとして名前を付けて保存します。
	アプリケーションの終了(X)			[CALS-BASE.NET]を終了します。
BORING 成果(&A)	ボーリング交換用データ(D)...			複数の[ボーリング交換用データ]ファイルを指定し、[電子納品]成果として登録します。
	電子柱状図(L)...			複数の[電子柱状図]ファイルを指定し、[電子納品]成果として登録します。
	電子簡略柱状図(R)...			複数の[電子簡略柱状図]ファイルを指定し、[電子納品]成果として登録します。
	ボーリングコア写真(P)			複数の[ボーリングコア写真]ファイルを指定し、[電子納品]成果として登録します。
	電子土質試験結果一覧表(T)			複数の[電子土質試験結果一覧表]ファイルを指定し、[電子納品]成果として登録します。
	土質試験結果一覧表データ(B)			複数の[土質試験結果一覧表データ]ファイルを指定し、[電子納品]成果として登録します。
	電子データシート(S)			複数の[電子データシート]ファイルを指定し、[電子納品]成果として登録します。
	データシート交換用データ(K)			複数の[データシート交換用データ]ファイルを指定し、[電子納品]成果として登録します。
	デジタル試料供試体写真(C)			複数の[デジタル試料供試体写真]ファイルを指定し、[電子納品]成果として登録します。
	グラフ・供試体スケッチ等(G)			複数の[グラフ・供試体スケッチ等]ファイルを指定し、[電子納品]成果として登録します。
その他の地質・土質調査成果(E)			複数の[その他の地質・土質調査成果]ファイルを指定し、[電子納品]成果として登録します。	
編集(E)	管理項目の再登録(&G)			指定済みの電子納品成果ファイルから[管理ファイル]の登録項目を再度読み込み、管理ファイル一覧表にセットします。
	項削除(S)			[BORING]～[OTHRFLS]の[管理ファイル]一覧表入力において、選択されたセルのデータを削除します。
	行削除(D)			[BORING]～[OTHRFLS]の[管理ファイル]一覧表入力において、選択された範囲行を削除します。
	行上へ(U)			[BORING]～[OTHRFLS]の[管理ファイル]一覧表入力において、選択された範囲行を1行上に移動します(選択行が1行目に達した場合は何もありません)。
	行下へ(D)			[BORING]～[OTHRFLS]の[管理ファイル]一覧表入力において、選択された範囲行を1行下に移動します(選択行が最終行に達した場合は何もありません)。
	昇順ソート(A)			[BORING]～[OTHRFLS]の[管理ファイル]一覧表入力において、カレントセルの列をキーとして入力中データを昇順にソート(並び替え)します。
	降順ソート(R)			[BORING]～[OTHRFLS]の[管理ファイル]一覧表入力において、カレントセルの列をキーとして入力中データを降順にソート(並び替え)します。
	切り取り(T) Ctrl+X			[BORING]～[OTHRFLS]の[管理ファイル]一覧表入力において、選択されたセルのデータを切り取り(削除してクリップボードにコピー)します。
	コピー(C) Ctrl+C			[BORING]～[OTHRFLS]の[管理ファイル]一覧表入力において、選択されたセルのデータを(クリップボードに)コピーします。
貼り付け(P) Ctrl+V			[BORING]～[OTHRFLS]の[管理ファイル]一覧表入力において、選択されたセルに(クリップボードに)コピーしたデータを貼り付けます。	
ツール(T)	成果品の[登録元フォルダ名]欄を表示(F)			機能を有効とすると、指定した成果品ファイルの登録元フォルダ名を[管理ファイル]一覧表に表示します。
	ウインドウ表示位置・サイズを記憶(W)			機能を有効とすると、システム終了時のウインドウ表示位置・サイズ(タブレイアウト)を記憶します(次回起動時に復元します)。
	ウインドウを常に最前面に表示(T)			機能を有効とすると、メイン画面が常に前面に表示され、他の Window に隠れることはありません。
	参照機能の設定(A)...			[作成ソフトウェア名の登録リスト]のメンテナンスおよび[起動システム]の指定を行います。
	参照情報の登録先確認(D)...			[参照情報の登録先]を確認します。
	ツールバーの表示(V)			ツールバーの表示/非表示を切り替えます。
ステータスバーの表示(S)			ステータスバーの表示/非表示を切り替えます。	
ヘルプ(H)	操作マニュアル(M)			本操作マニュアルを表示します(PDF 閲覧ソフトウェアがインストールが必要)。
	電子納品要領 (N)			表示中の[管理ファイル]に対応した「地質・土質調査成果電子納品要領」ページを表示します(PDF 閲覧ソフトウェアがインストールが必要)。
	バージョン情報(V)...			バージョン情報等を表示します。

### 3.3. コンテキストメニュー構成

#### 3.3.1. 管理ファイル一覧表

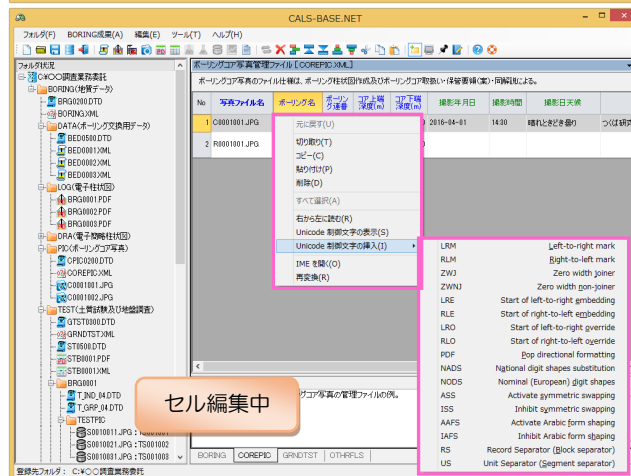
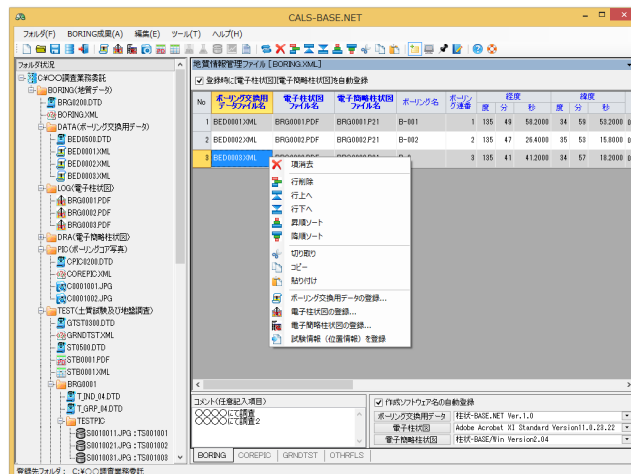
[BORING]～[OTHRFLS]の[管理ファイル一覧表]入力において、マウスの右ボタンをクリックするとコンテキストメニューが表示されます。

セル**選択**中とセル**編集**中とで表示されるコンテキストメニューは変更されます。

セル**選択**中に表示されるコンテキストメニューは、選択状況に応じて[編集]機能と[BORING 成果]機能が表示されます（[5.電子納品成果の指定][6.5.編集]を参照して下さい）。

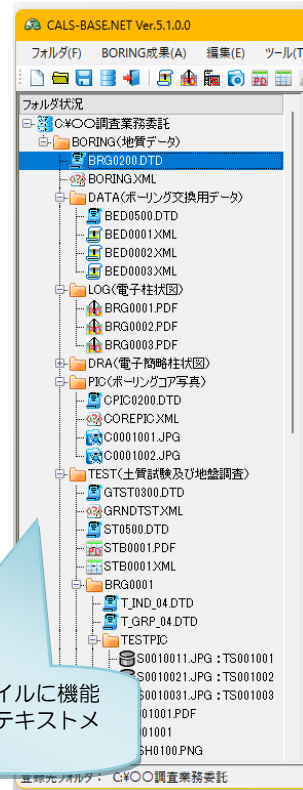
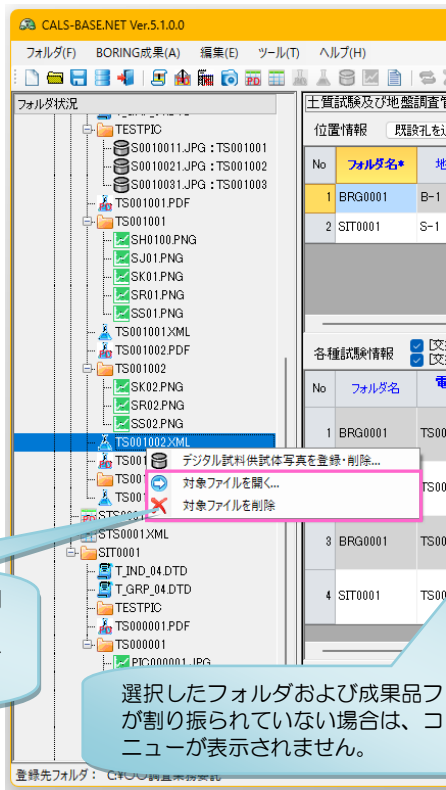
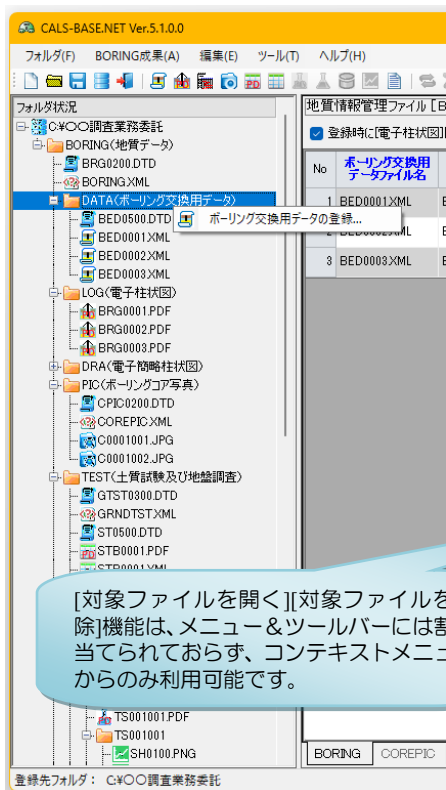
セル**編集**中に表示されるコンテキストメニューについて以下に示します。

- 元に戻す：編集結果をもとに戻します。
- 切り取り・コピー・貼り付け・削除：[編集]機能と同一です。
- すべて選択：編集中データを選択状態とします。
- 右から左に読む：右寄せとなります。
- Unicode 制御文字の表示：入力データに Unicode 制御文字が含まれている場合に表示します（通常は利用しません）
- Unicode 制御文字の挿入：入力データに Unicode 制御文字を挿入します（通常は利用しません）
- IME（漢字変換）を ON にします。
- 再変換：再度、漢字変換を実施します。



#### 3.3.2. フォルダ状況

フォルダ状況（ツリービュー）において、選択したフォルダおよび成果品ファイルに応じて機能が割り振られ、マウスの右ボタンをクリックすると機能毎のコンテキストメニューが表示されます。



## Memo

.BOR さんの独り言 . . .

貴重な調査結果が後工程（特に設計工程）で十分に活用されていないと感じることありませんか . . .

- 電子納品成果の正しい作成 & 報告が、後工程での調査成果の有効活用につながるように . . .
- そのことが調査の重要性を、更に広く & 深く認識されることにつながるように . . .



## 4. 電子納品フォルダの指定

本章では、[電子納品]フォルダの指定機能について説明します。

CALS-BASE.NET では、「電子納品成果ファイルの指定状況」および「管理ファイルの入力結果」を、指定した[電子納品]フォルダに登録します（登録先フォルダ指定）。

また電子納品成果の追加修正を行う場合は、元となる[電子納品]フォルダを指定し、その後に登録および入力作業を継続実施します（登録元フォルダ指定）。

これらの[電子納品]フォルダの指定に関する機能は主に[フォルダ]メニューに割り当てられています。



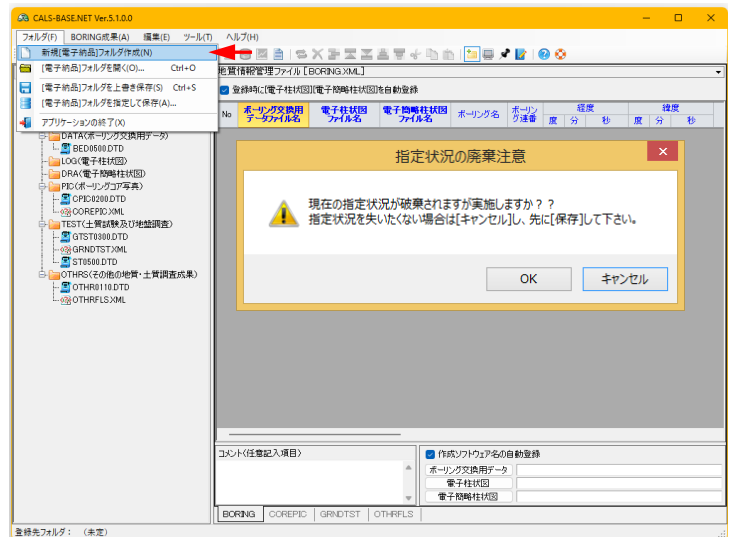
Windows アプリケーションの流儀（Microsoft 流）に従い、[ファイル][フォルダ]関連メニューは最左に配置しており、基本的にメニュー左側から機能説明していますが、5章・6章の説明を先に確認して頂いたほうが解り易いものと思います。

### 4.1. 新規[電子納品]フォルダ作成

新しく[電子納品]成果を作成する場合に選択します。→全ての指定が初期状態となります（**起動直後と同一状態となります**）。

初期状態とは、BORING フォルダ以下に配置されるフォルダおよび管理ファイルのうち、最低限の[XML/DTD]を配置した状態であり、登録元フォルダは（新規）、登録先フォルダは（未定）となります。

指定（作成）中データが[電子納品]フォルダに保存されていない（あるいは、保存後に再指定された）場合は**破棄注意メッセージ**が表示されますので、指定中データを失いたくない場合は[キャンセル]を、問題ない場合は[OK]をクリックします。



### 4.2. [電子納品]フォルダを開く

継続指定の対象となる[電子納品]成果が登録されているフォルダを指定します。

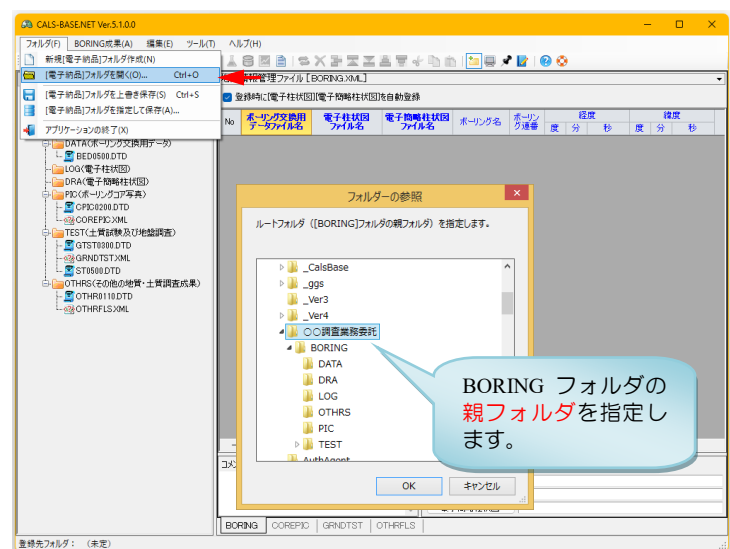
**!** BORING フォルダではなく、BORING フォルダの親フォルダを指定します。

- 指定フォルダから[電子納品]成果の登録状況を読み取り、フォルダ状況および各管理ファイルにセットします。
- 登録元フォルダ、登録先フォルダ共に指定フォルダとなります。

以降、[電子納品]成果ファイル指定・削除や管理ファイルの編集など、[電子納品]成果作成を継続します。

CD/DVD/BlueRay Disk など読み込み専用媒体のフォルダを指定し登録状況を確認することは可能ですが、編集結果を書き戻すことはできません。

編集継続のためには HDD や Memory 等にフォルダごとコピーしてからフォルダ指定します。

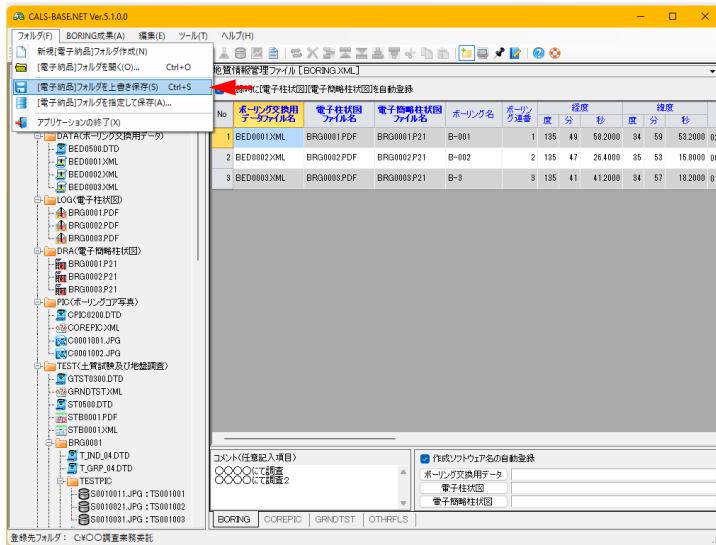


### 4.3. [電子納品]フォルダを上書き保存

現在の[電子納品]成果の指定状況を登録先フォルダに上書き保存します。

新規あるいは起動直後など「登録先フォルダが未定」の場合は 4.4.[電子納品]フォルダを指定して保存コマンドが実行します。

- ⚠ 4.6[電子納品]フォルダ登録時のチェック機能に示したチェックを実施します。
- ⚠ システムクラッシュに備えて定期的に本コマンドを実行されることをお勧めします。



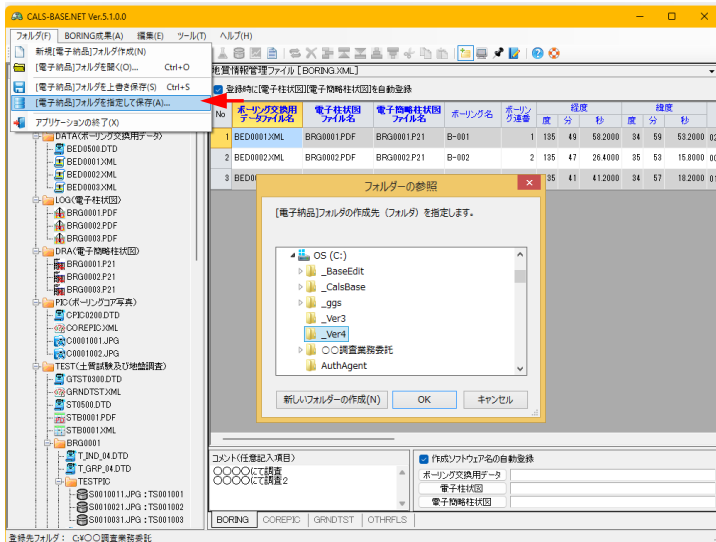
### 4.4. [電子納品]フォルダを指定して保存

現在の[電子納品]成果の指定状況を、登録先フォルダを指定して保存します。フォルダの参照ダイアログが表示されるため、保存先フォルダを指定します。

- ⚠ 4.6[電子納品]フォルダ登録時のチェック機能に示したチェックを実施します。
- ⚠ 空のフォルダをお勧めします。

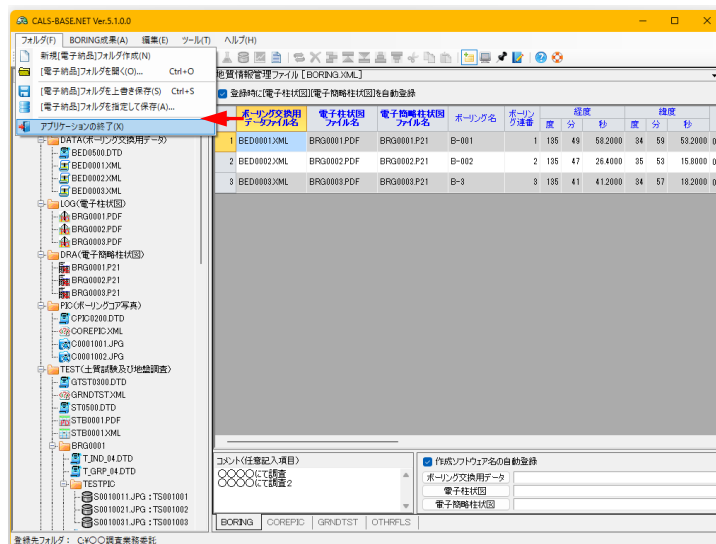
**ルートフォルダに INDEX\_D.XML・INDE\_D04.DTD をコピーします！**

他の電子納品支援ツールで INDEX\_D.XML を要求するものがあるため、INDEX\_D.XML (必要最低限のタグのみ) と INDE\_D04.DTD を、指定されたフォルダ (ルートフォルダ) にコピーします。



### 4.5. アプリケーションの終了

CALS-BASE.NET を終了します。アプリケーションコントロールでの[閉じる]操作や、メインウィンドウ右上の[閉じる]ボタン (X) をクリックも同一操作となります。



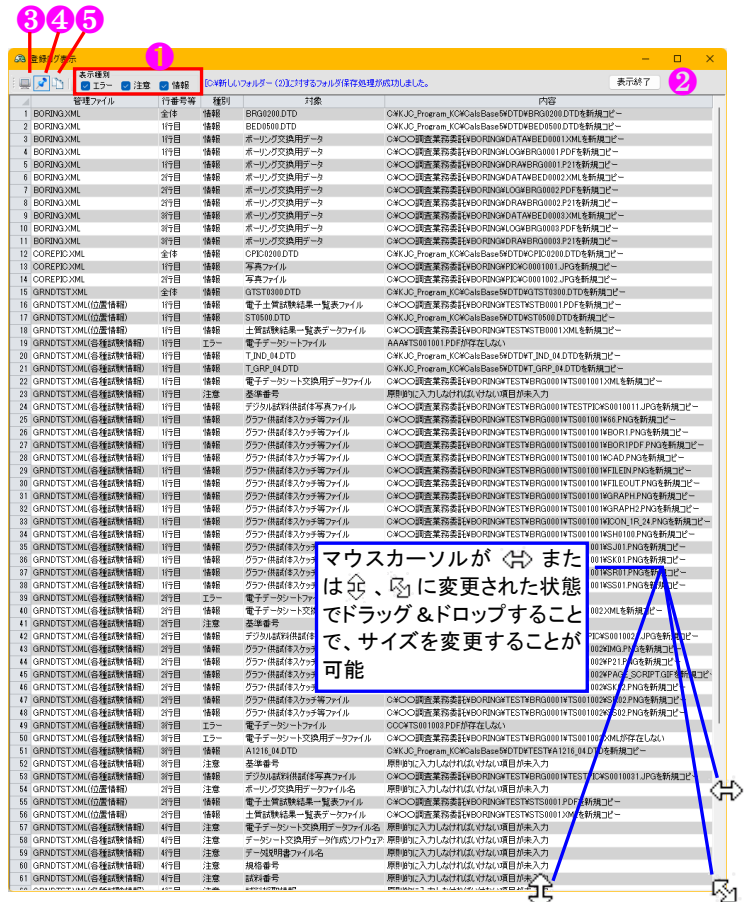
## 4.6. [電子納品]フォルダ登録時のチェック機能

電子納品成果を作成（[電子納品]フォルダ登録）する際、各成果品ファイルの指定状況および各管理ファイルの作成状況に対し詳細なチェックを行い、結果を登録ログとして表示します。

登録ログはエラー・注意・情報に分かれており、最終成果作成時点ではエラー原因の解消と、特別な理由を除く注意原因の解消により、エラーの無い納品成果の確実な作成が可能となります。

チェックは基本的に管理ファイル順に実施されます（BORING.XML→COREPIC.XML→GRNDTST.XML→OTHRFLS.XML）。

- ① [エラー][注意][情報]の各チェックの On/Off により当該種別の表示 On/Off が切り替わります。
- ② [表示終了]クリックにより登録ログ表示が終了します。
- ③ [7.1.2.ウィンドウ表示位置・サイズを記憶]を参照
- ④ [7.1.3 ウィンドウを常に前面に表示]を参照
- ⑤ 選択中のセル内容をクリップボードにコピーします。→Excel 等に張り付けてレポート作成等に利用します。



### 必須入力項目

- エラー：文字数違反、文字数オーバー
- エラー：必須記入項目が未入力

### 原則的に入力しなければならない項目

- エラー：文字数オーバー
- 注意：原則的に入力しなければならない項目が未入力

### 任意入力項目

- エラー：文字数オーバー

### 電子納品成果ファイル項目

- エラー：[コピー元の絶対パス名]が存在しない
- 情報：[コピー元の絶対パス名]を上書きコピー（コピー先に既に同一ファイル名が存在する場合）
- 情報：[コピー元の絶対パス名]を新規コピー（コピー先に同一ファイル名が存在しない場合）

### 電子納品要領との違い

- 地質情報管理ファイル（BORING.XML）柱状図区分の文字数は 10（全角）となっていますが、[地すべり（標準貫入試験用）]が 13 文字のため 13（全角）でチェックしています。
- ボーリングコア写真管理ファイル（COREPIC.XML）写真ファイル名の文字数は 13（半角）となっていますが、半角[8.3]あるいは[8.4]固定でチェックしています。
- その他管理ファイル（OTHRFLS.XML）電子データファイル名の文字数は 13（半角）となっていますが、半角[8 文字以内.3]あるいは[8 文字以内.4]固定でチェックしています。
- 地質情報管理ファイル（BORING.XML）ボーリングコメント、土質試験及び地盤調査管理ファイル（GRNDTST.XML）位置情報コメントおよび各種試験コメントは、複数データの入力が可能のため、文字数はデータ毎 127/128（全角）文字でチェックしています。

## 4.7. 成果品登録元フォルダ

「電子納品成果ファイルの指定」方法の理解が前提知識となるため、まずは「5. 電子納品成果の指定」を確認して下さい。

電子納品成果ファイル指定後に電子納品ファイルを更新する（差し替える）場合、更新対象ファイルは「登録元フォルダ名」内のファイルとなります。

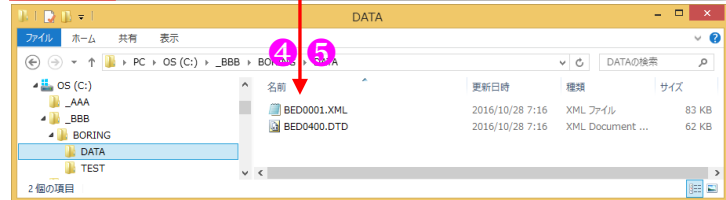
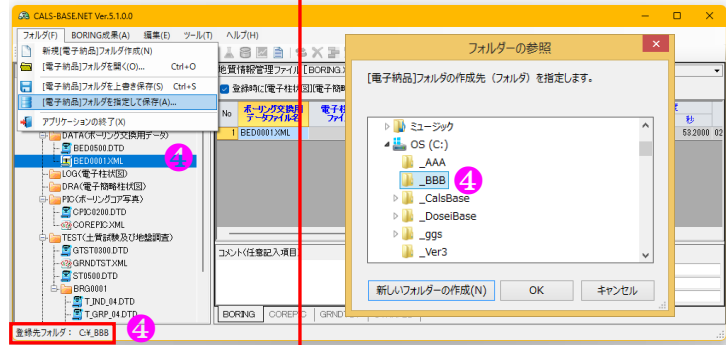
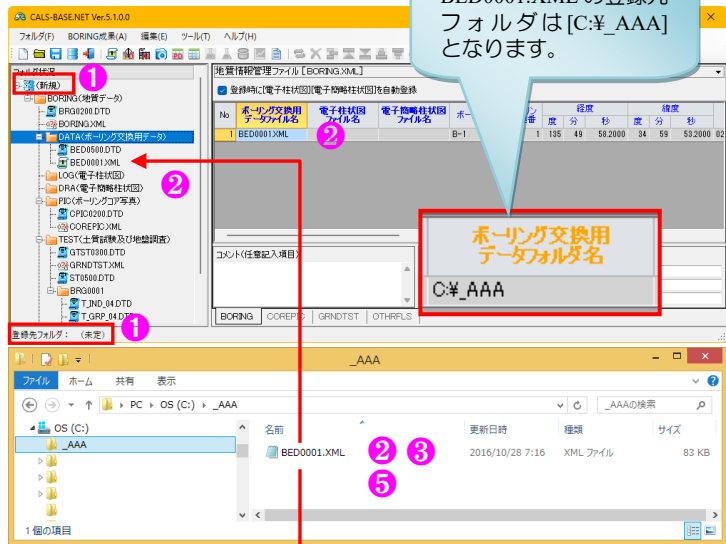
ファイル更新後に[電子納品フォルダを指定して保存]あるいは[電子納品フォルダを上書き保存]を実施します。また、管理ファイルを更新する場合は、先立って[管理項目の再登録]を実施します。

### (1) 新規作成の場合

- ① システム起動直後および新規[電子納品]フォルダ作成時点では、「登録元フォルダ：新規」「登録先フォルダ：未定」となります。
- ② 以下のポーリング関連成果品を指定いたします。

種別	登録元パス名
ポーリング交換用	C:\¥_AAA¥BED0001.XML

- ③ [BED0001.XML]を更新する場合は当然ですが、[C:\¥\_AAA¥BED0001.XML]を更新します。
- ④ 次に（例えば）[フォルダ]-[電子納品フォルダを指定して保存]により[C:\¥\_BBB]フォルダに保存します。  
→「登録先フォルダ：C:\¥\_BBB」となります。  
→ [C:\¥\_AAA¥BED0001.XML] が [C:\¥\_BBB¥BORING¥DATA¥BED0001.XML] に新規コピーされます。
- ⑤ この段階で[BED0001.XML]を更新する場合も、[C:\¥\_AAA¥BED0001.XML]を更新し[電子納品フォルダを上書き保存]を実施します。  
→ [C:\¥\_BBB¥BORING¥DATA¥BED0001.XML] ではありません。  
→ [C:\¥\_AAA¥BED0001.XML] が [C:\¥\_BBB¥BORING¥DATA¥BED0001.XML] に上書きコピーされます。

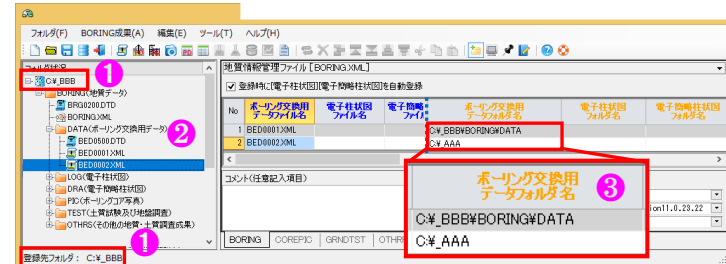
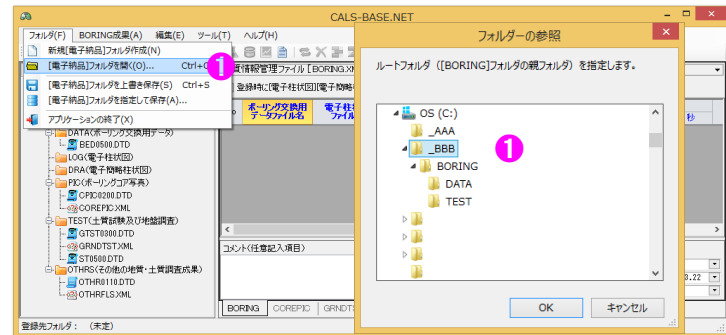


### (2) 既存成果を追加・削除する場合

- ① [フォルダ]-[電子納品フォルダを開く]により[C:\¥\_BBB]フォルダを指定します。
- ② 以下のポーリング関連成果品を指定いたします。

種別	登録元パス名
ポーリング交換用	C:\¥_AAA¥BED0002.XML

- ③ [BED0001.XML]は[電子納品フォルダを開く]により管理ファイル[BORING.XML]記載内容から設定されたためデータフォルダ名が[C:\¥\_BBB]からの相対位置に変更されており、新たに設定された[BED0002.XML]は[C:\¥\_AAA]と、両者のデータフォルダ名が違う（=更新対象となるファイルの対象フォルダが違う）事に注意して下さい。



### (3) DTD ファイル

必要な DTD ファイルは CALS-BASE.NET のインストール先フォルダから適宜コピーされますが、既に存在する場合は上書きコピーしません。

## 5. 電子納品成果の指定

[BORING]フォルダ以下に登録する各電子納品成果ファイルを指定します（本機能が CALS-BASE.NET Ver.1.0 のメイン機能となります）。

⚠ 前もって電子納品成果ファイルを準備し、電子納品要領の「ファイル名の命名規則」に従った名前変更を実施しておく必要があります。

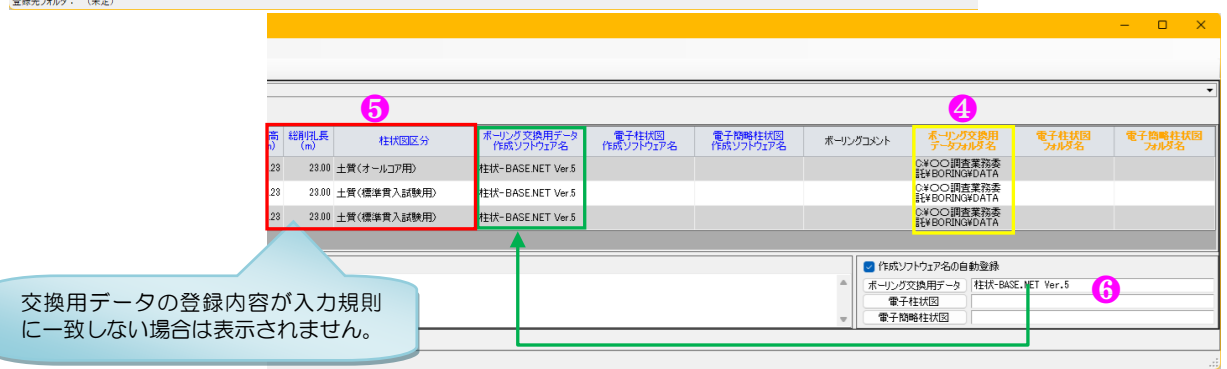
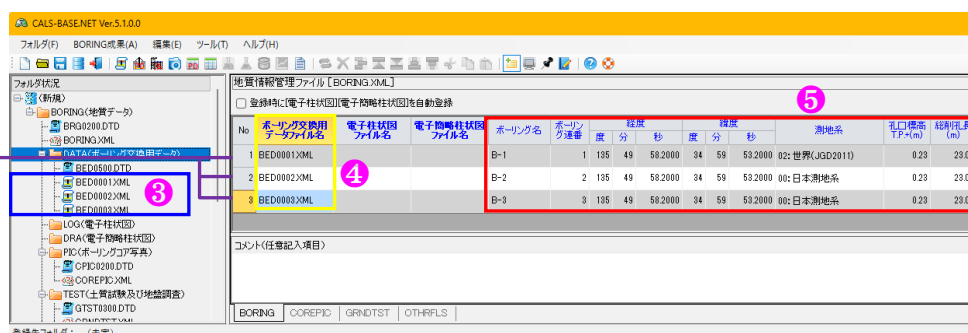
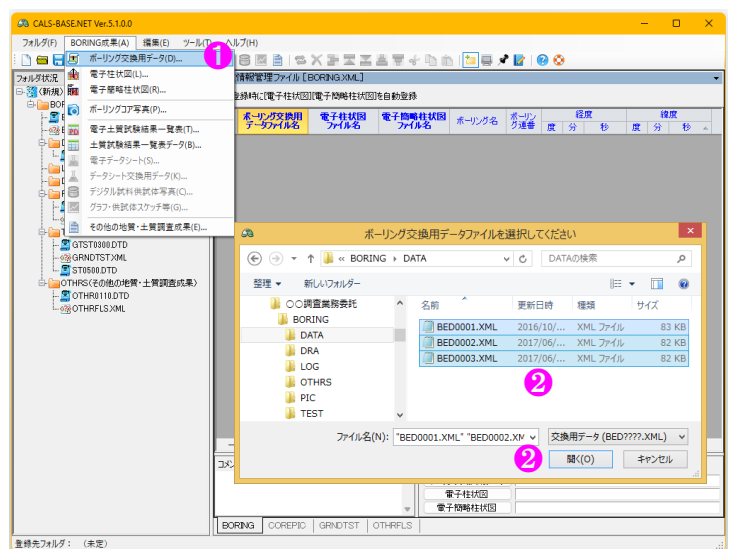
これらの電子納品成果の指定機能は主に[BORING 成果]メニューに割り当てられています。



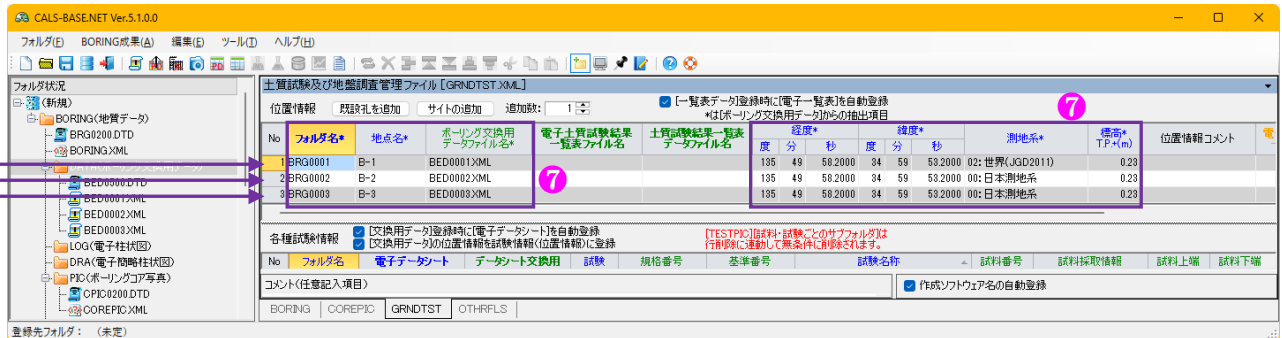
### 5.1. ボーリング交換用データ

[ボーリング交換用データ]ファイルを指定し、[電子納品]成果として登録します。

- [BORING 成果]-[ボーリング交換用データ]をクリック（ツールバーおよびコンテキストメニューからも操作可能）します。→ファイル選択用ダイアログが表示されます。
- [ボーリング交換用データ]ファイルを指定し、[開く]をクリックします（複数ファイル指定可能）。
- 指定されたボーリング交換用データのファイル名をフォルダ状況に表示します（下図青枠）。
- [ボーリング交換用データファイル名]欄に指定されたファイルのファイル名をセットし、[ボーリング交換用データフォルダ名]欄に指定されたファイルの登録元フォルダ名をセットします（下図黄枠）。→フォルダ名欄は[ツール]-[成果品の登録元フォルダ名欄を表示]により表示・非表示が切替可能です。
- ボーリング交換用データから管理ファイル(BORING.XML)の管理項目を抽出してセットします（下図赤枠）。
- [作成ソフトウェア名の自動登録]をチェックすると[ボーリング交換用データ]欄の名称を自動登録します。

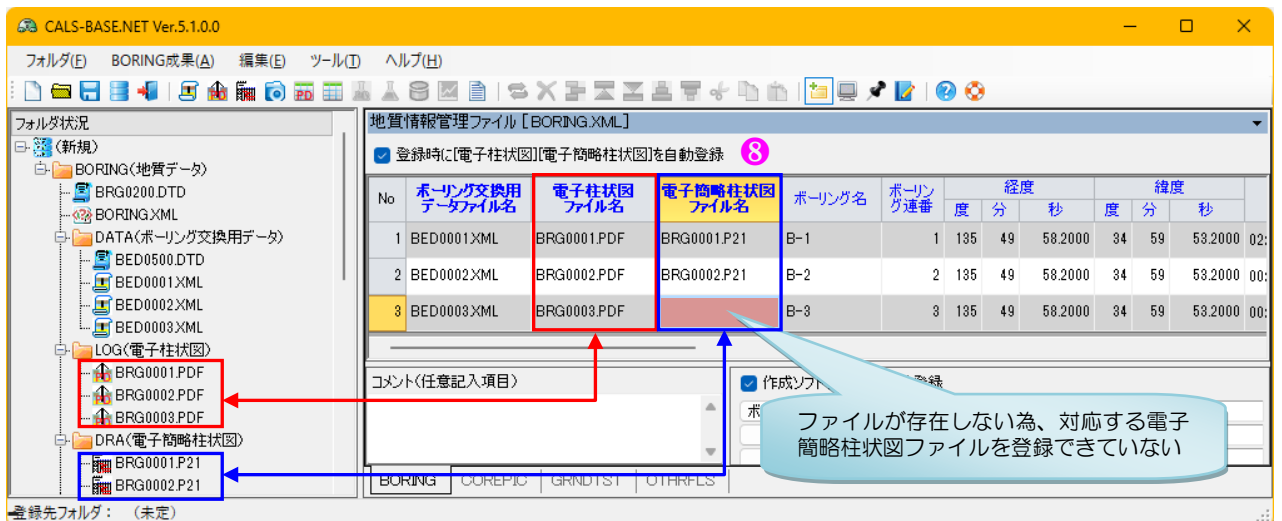


- ⑦ ボーリング交換用データに関連付けられた[土質試験及び地盤調査]を登録するために必要となる管理ファイル (GRNDTST.EXL) の位置情報列を自動的に作成します。  
→[ボーリング交換用データ]ファイル名から[フォルダ名]を自動生成し、管理項目を抽出してセットします (下図紫枠)



- ⑧ 登録時に[電子柱状図][電子簡略柱状図]を自動登録をチェックすると、[ボーリング交換用データ]ファイル指定に連動して、[電子柱状図][電子簡略柱状図]を自動的に登録することができます。  
→検索条件として、以下の2パターンがあります。

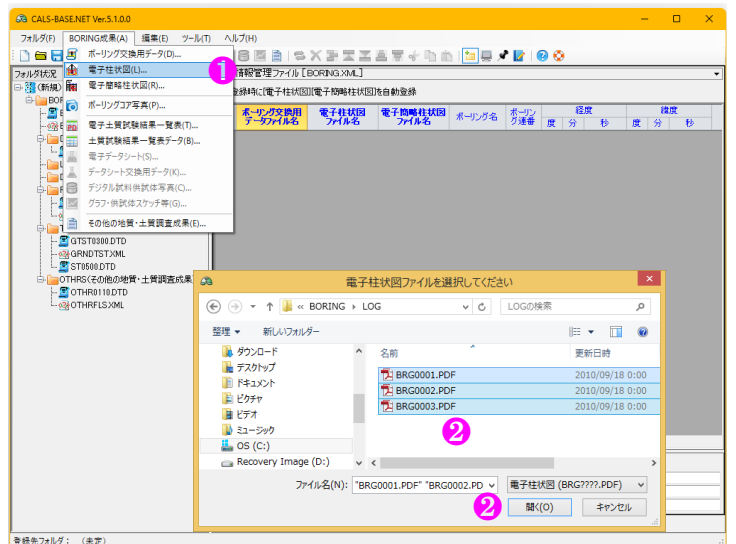
- [電子柱状図][電子簡略柱状図]ファイルが[ボーリング交換用データ]ファイルと同一フォルダにある
  - 電子納品要領に規定されたフォルダ構成を持つ ([ボーリング交換用データ]が[DATA]、[電子柱状図]が[LOG]、[電子簡略柱状図]が[DRA];それぞれ同一階層フォルダにある)



## 5.2. 電子柱状図

[電子柱状図]ファイルを指定し、[電子納品]成果として登録します。

- ① [BORING 成果]-[電子柱状図]をクリック (ツールバーおよびコンテキストメニューからも操作可能) します。→ファイル選択用ダイアログが表示されます。
- ② [電子柱状図]ファイルを指定し、[開く]をクリックします (複数ファイル指定可能)。
- ③ 指定された電子柱状図データのファイル名をフォルダ状況に表示します (下図青枠)。
- ④ [電子柱状図ファイル名]欄に指定されたファイルのファイル名をセットし、[電子柱状図フォルダ名]欄に指定されたファイルの登録元フォルダ名をセットします (下図赤



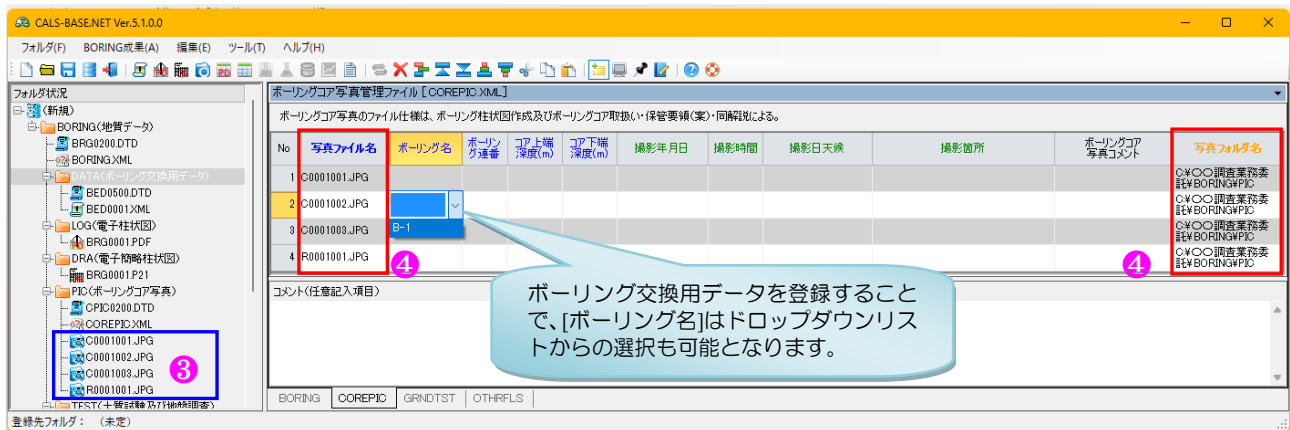
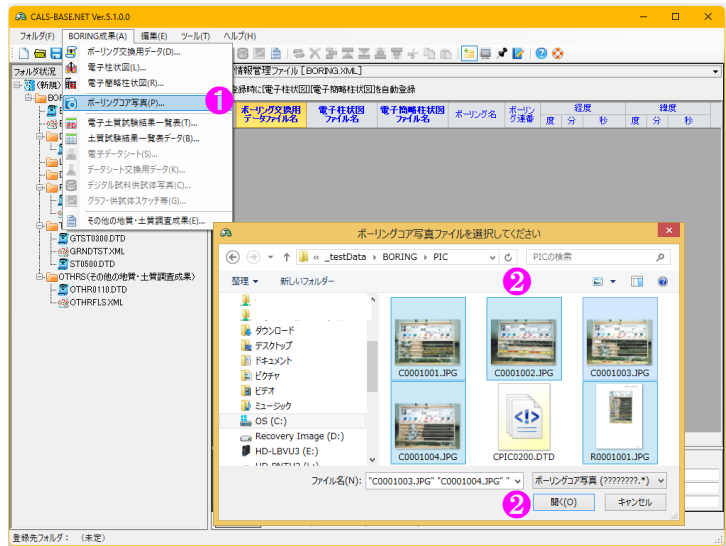


## 5.4. ボーリングコア写真

[ボーリングコア写真]ファイル指定し、[電子納品]成果として登録します。

ファイル選択用ダイアログでは緩いチェック(???????)であるため、ファイル指定はできますが、後の処理で、ファイル命名規則に従い「ファイル名の先頭は[C]あるいは[R]+以降 7 数字(半角)+.拡張子は任意」としてファイル名チェックを実施しています。

- ① [BORING 成果]-[ボーリングコア写真]をクリック(ツールバーおよびコンテキストメニューからも操作可能)します。→ファイル選択用ダイアログが表示されます。
- ② [ボーリングコア写真]ファイル指定し、[開く]をクリックします(複数ファイル指定可能)。
- ③ 指定されたボーリングコア写真データのファイル名をフォルダ状況に表示します(下図青枠)。
- ④ [ボーリングコア写真ファイル名]欄に指定されたファイルのファイル名をセットし、[電子簡略柱状図フォルダ名]欄に指定されたファイルの登録元フォルダ名をセットします(下図赤枠)。



## 5.5. 電子土質試験結果一覧表～データシート交換用データ

[電子土質試験結果一覧表][土質試験結果一覧表データ][電子データシート][データシート交換用データ]ファイルは位置情報「ボーリング孔(新設孔・既設孔)あるいはサイト」に依存しており、まず初めに位置情報を作成する必要があります。

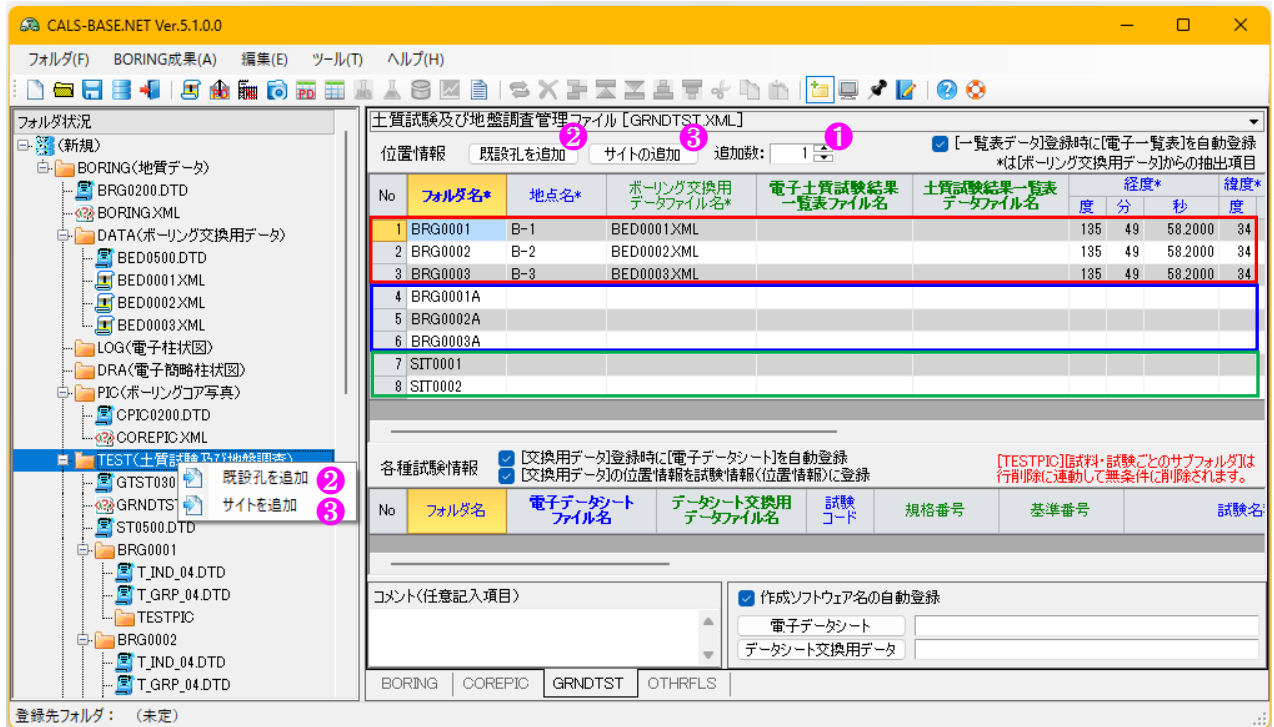
「5.1.ボーリング交換用データ」で示したように、新設孔の位置情報は[ボーリング交換用データ]ファイル指定することで自動的に作成されます(下図赤枠)。

- ⚠ 新設孔の位置情報は[ボーリング交換用データ]ファイル指定と連動しており非常に便利ですが、行削除も連動するため注意が必要です(詳細は「6.5.3.行削除」を参照)。
- ⚠ 対応する[ボーリング交換用データ][電子柱状図][電子簡略柱状図]の指定がすべて削除されると、位置情報も削除されます。

既設孔あるいはサイトの位置情報作成は[GRNDTST]タブ内で実施します。

- ① 既設孔あるいはサイトの追加数を追加数:欄に入力あるいは選択指定します。
- ② [既設孔を追加]ボタンをクリックすると追加数に応じて既設孔用の位置情報を作成します。  
→下図は既設孔用の位置情報を3レコード(BRG0001A~BRG0003A)追加した例です(下図青枠)。
- ③ [サイトを追加]ボタンをクリックすると追加数に応じてサイト用の位置情報を作成します。  
→下図はサイト用の位置情報を2レコード(SIT0001~SIT0002)追加した例です(下図緑枠)。

⚠ コンテキストメニューからも追加可能です。

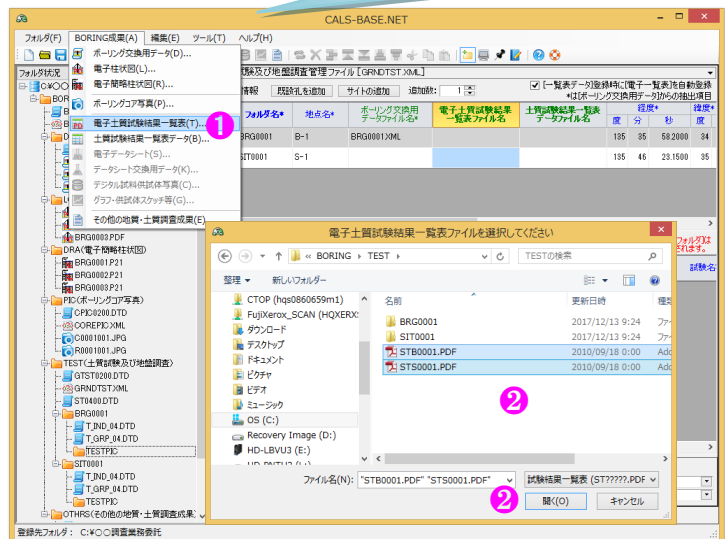


## 5.6. 電子土質試験結果一覧表

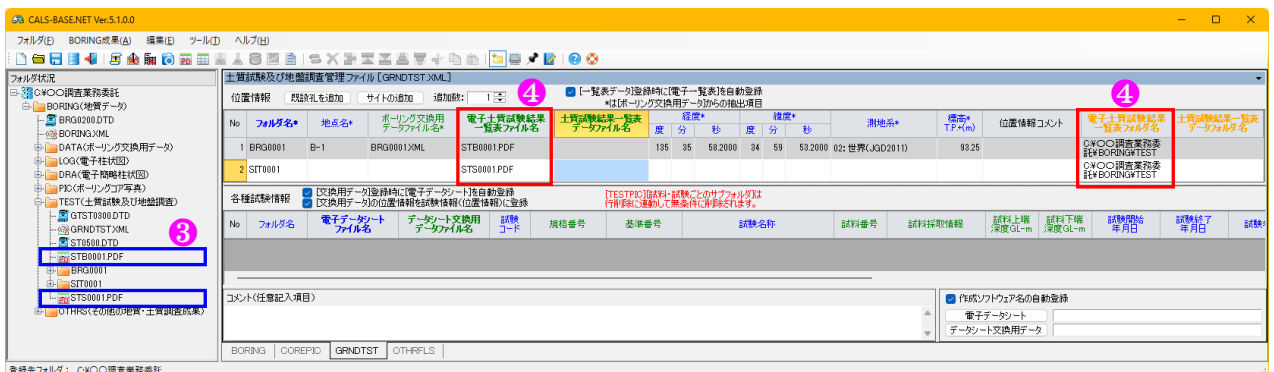
[電子土質試験結果一覧表]ファイルを指定し、[電子納品]成果として登録します。

- [BORING 成果]-[電子土質試験結果一覧表]をクリック (ツールバーおよびコンテキストメニューからも操作可能) します。→ファイル選択用ダイアログが表示されます。
- [電子土質試験結果一覧表]ファイルを指定し、[開く]をクリックします (複数ファイル指定可能)。
- 指定された電子土質試験結果一覧表のファイル名をフォルダ状況に表示します (下図青枠)。
- [電子土質試験結果一覧表ファイル名]欄に指定されたファイルのファイル名をセットし、[電子土質試験結果一覧表フォルダ名]欄に指定されたファイルの登録元フォルダ名をセットします (下図赤枠)。

⚠ 前もって「関連付ける位置情報を選択」する必要はありません。



⚠ どの位置情報に関連付くかは指定したファイル名の命名規則により、関連付く位置情報が見つからない場合は登録エラーとなります。



## 5.7. 土質試験結果一覧表データ

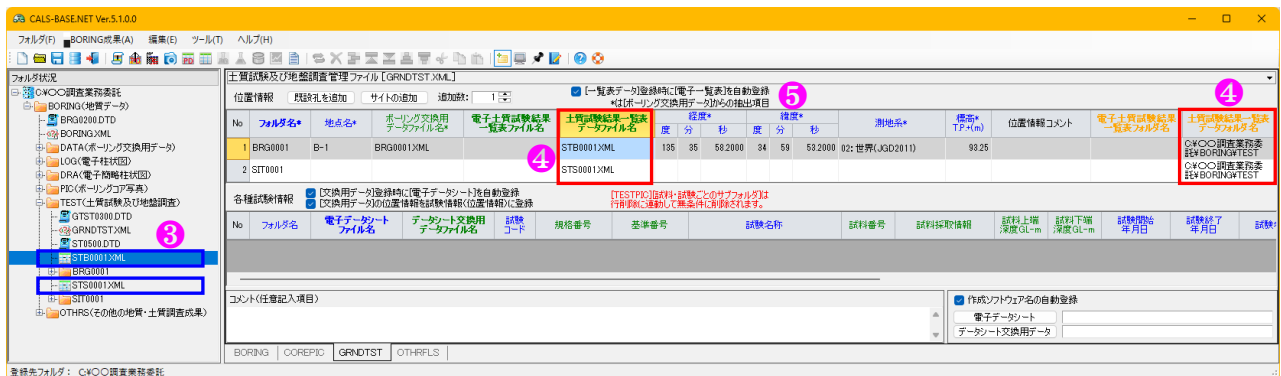
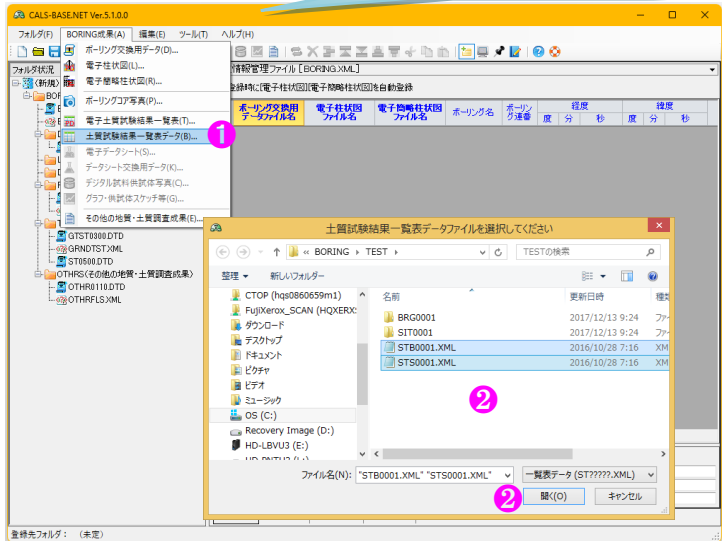
[土質試験結果一覧表データ]ファイルを指定し、[電子納品]成果として登録します。

- ① [BORING 成果]-[土質試験結果一覧表データ]をクリック（ツールバーおよびコンテキストメニューからも操作可能）します。→ファイル選択用ダイアログが表示されます。
- ② [土質試験結果一覧表データ]ファイルを指定し、[開く]をクリックします（複数ファイル指定可能）。
- ③ 指定された土質試験結果一覧表データのファイル名をフォルダ状況に表示します（下図青枠）。
- ④ [土質試験結果一覧表データファイル名]欄に指定されたファイルのファイル名をセットし、[土質試験結果一覧表データフォルダ名]欄に指定された登録元フォルダ名をセットします（下図赤枠）。

⚠ どの位置情報に関連付くかは指定したファイル名の命名規則により、関連付く位置情報が見つからない場合は登録エラーとなります。

- ⑤ [一覧表データ]登録時に[電子一覧表]を自動登録をチェックすると、[土質試験結果一覧表データ]ファイル指定に連動して、[電子土質試験結果一覧表]を登録することができます。→[土質試験結果一覧表データ][電子土質試験結果一覧表]ファイルが同一フォルダにあることが検索条件となります。

⚠ 前もって「関連付ける位置情報を選択」する必要はありません。

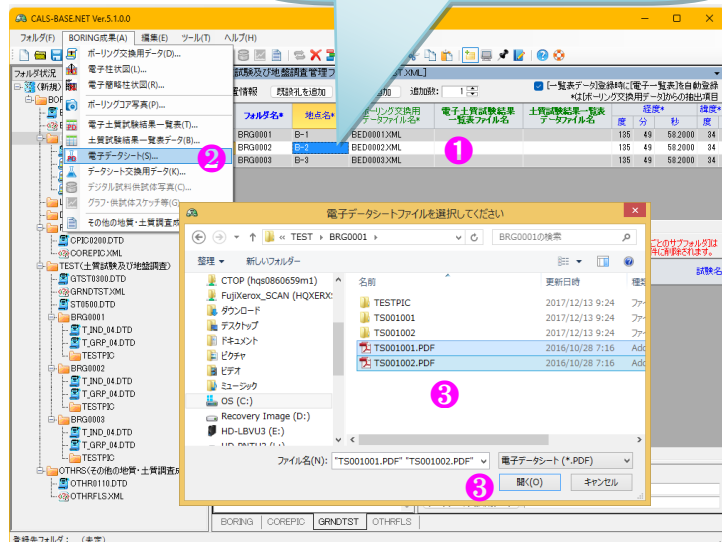


## 5.8. 電子データシート

[電子データシート]ファイルを指定し、[電子納品]成果として登録します。

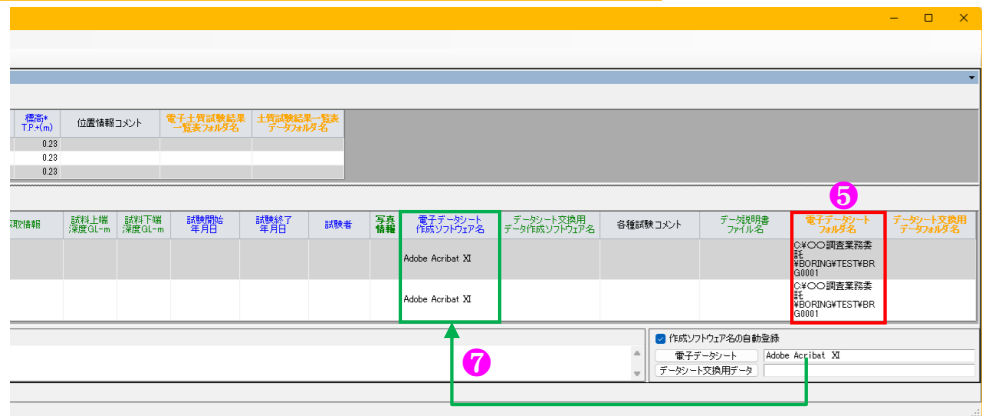
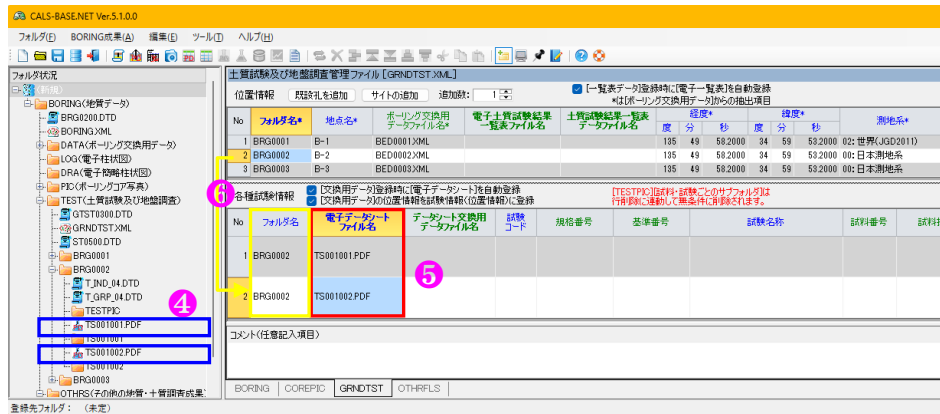
- ① 関連付ける位置情報を選択します。
- ② [BORING 成果]-[電子データシート]をクリック（ツールバーおよびコンテキストメニューからも操作可能）します。→ファイル選択用ダイアログが表示されます。
- ③ [電子データシート]ファイルを指定し、[開く]をクリックします（複数ファイル指定可能）。
- ④ 指定された電子データシートのファイル名をフォルダ状況に表示します（下図青枠）。
- ⑤ [電子データシートファイル名]欄に指定されたファイルのファイル名をセットし、[電

⚠ 前もって「関連付ける位置情報を選択」してからファイル指定します。



子データシートフォルダ名]欄に指定されたファイルの登録元フォルダ名をセットします(下図赤枠)。

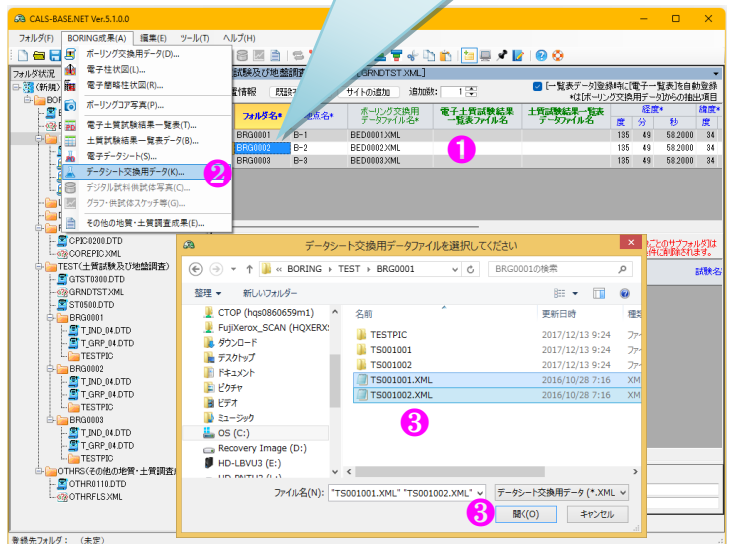
- ⑥ 関連付けられた位置情報のフォルダ名を各種試験情報の[フォルダ名]欄にセットします(下図黄枠)。
- ⑦ [作成ソフトウェア名の自動登録]をチェックすると[電子データシート]欄の名称を自動登録します。

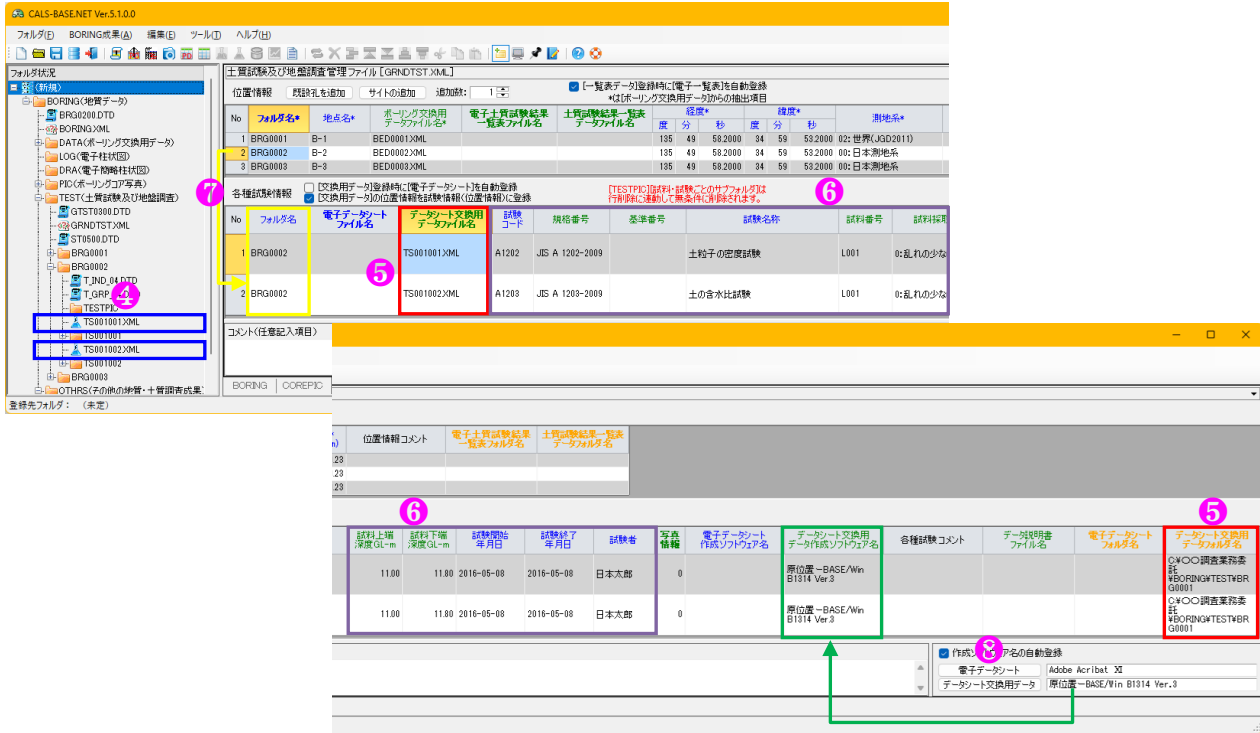


## 5.9. データシート交換用データ

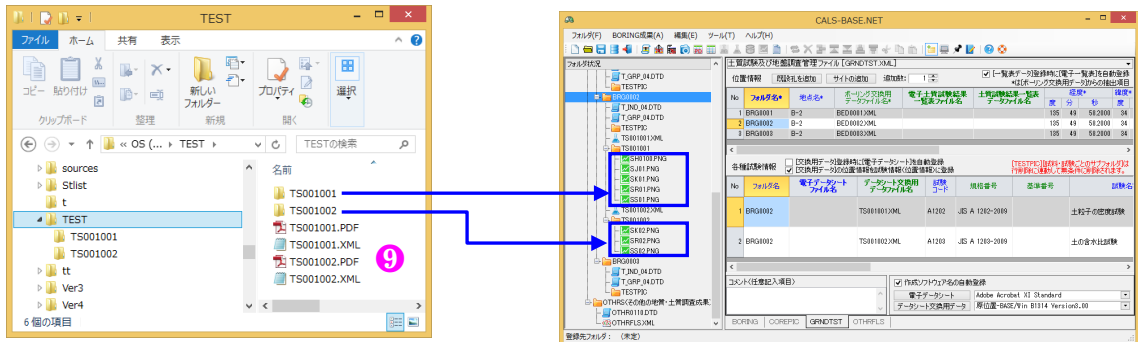
[データシート交換用データ]ファイルを指定し、[電子納品]成果として登録します。

- ① 関連付ける位置情報を選択します。
- ② [BORING 成果]-[データシート交換用データ]をクリック(ツールバーおよびコンテキストメニューからも操作可能)します。→ファイル選択用ダイアログが表示されます。
- ③ [データシート交換用データ]ファイルを指定し、[開く]をクリックします(複数ファイル指定可能)。
- ④ 指定されたデータシート交換用データのファイル名をフォルダ状況に表示します(下図青枠)。
- ⑤ [データシート交換用データファイル名]欄に指定されたファイルのファイル名をセットし、[データシート交換用データフォルダ名]欄に指定されたファイルの登録元フォルダ名をセットします(下図赤枠)。
- ⑥ データシート交換用データから管理ファイル(GRNDTST.XML)の管理項目を抽出してセットします(下図紫枠)。
- ⑦ 関連付けられた位置情報のフォルダ名を各種試験情報の[フォルダ名]欄にセットします(下図黄枠)。
- ⑧ [作成ソフトウェア名の自動登録]をチェックすると[データシート交換用データ]欄の名称を自動登録します。





⑨ 指定された[データシート交換用データ]ファイルと同一名称フォルダがある場合は、関連する[グラフ・供試体スケッチ等]が登録されているものとみなし、同一名称フォルダ内のファイルを自動登録します。



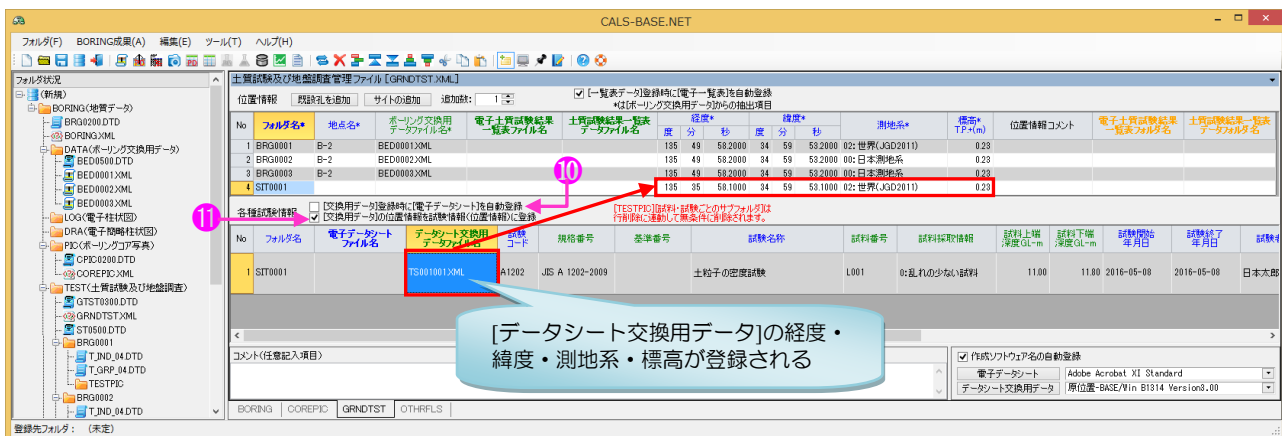
⑩ [交換用データ]登録時に[電子データシート]を自動登録をチェックすると、[データシート交換用データ]ファイル指定に連動して、[電子データシート]を登録することができます。

→[データシート交換用データ][電子データシート]ファイルが同一フォルダにあることが検索条件となります。

⚠ 指定された[データシート交換用データ]に対応する DTD ファイルは、[電子納品]フォルダ作成時に自動的に CALS-BASE.NET のインストール先フォルダからコピーされます。

⑪ [交換用データ]の位置情報を試験情報（位置情報）に登録をチェックすると、[データシート交換用データ]ファイル指定登録されている項目を抽出し、[位置情報]の経度・緯度・測地系・標高に登録します（下図赤枠）。

⚠ 但し本機能が有効なのは既設孔およびサイトに対してであり、新設孔に対してはボーリング交換用データの経度・緯度・測地系・標高と矛盾しないよう本機能は無効となります。

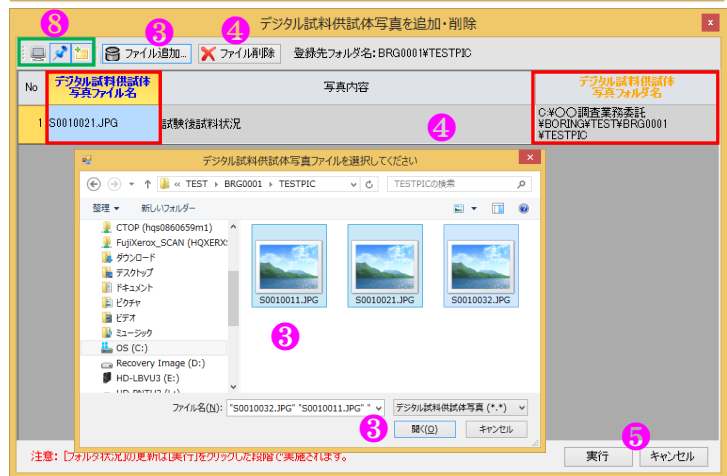
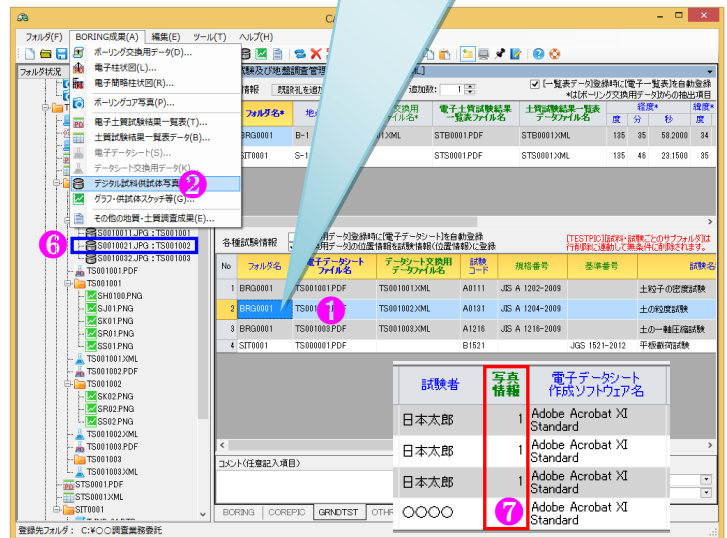


## 5.10. デジタル試料供試体写真

[デジタル試料供試体写真]ファイルを指定し、[電子納品]成果として登録します。

- ① 関連付ける各種試験情報を選択します。
- ② [BORING 成果]-[デジタル試料供試体写真]をクリック（ツールバーおよびコンテキストメニューからも操作可能）します。→デジタル供試体写真を追加・削除ダイアログが表示されます。
- ③ [ファイル追加]をクリックするとファイル選択用ダイアログが表示されるため、[デジタル試料供試体写真]ファイルを指定し、[開く]をクリックします（複数ファイル指定可能）。→[デジタル試料供試体写真ファイル名]欄に指定されたファイルのファイル名をセットし、[デジタル試料供試体写真フォルダ名]欄に指定されたファイルの登録元フォルダ名をセットします（下図赤枠）。
- ④ 削除したい行（セル）を選択し、[ファイル削除]をクリックすると指定されたファイル指定が取り消されます。
- ⑤ 指定を確定する場合は[実行]、指定を取り消す場合は[キャンセル]をクリックします。
- ⑥ 指定されたデジタル試料供試体写真のファイル名をフォルダ状況に表示します（右図青枠）。
- ⑦ 管理ファイル（GRNDTST.XML）各種試験情報の[写真情報]欄に、関連付けられたファイル数をセットします。
- ⑧ ダイアログの共通機能（右図緑枠）については「7.1.1~7.1.3」を参照下さい。

⚠ 前もって「関連付ける各種試験情報を選択」してからファイル指定します。



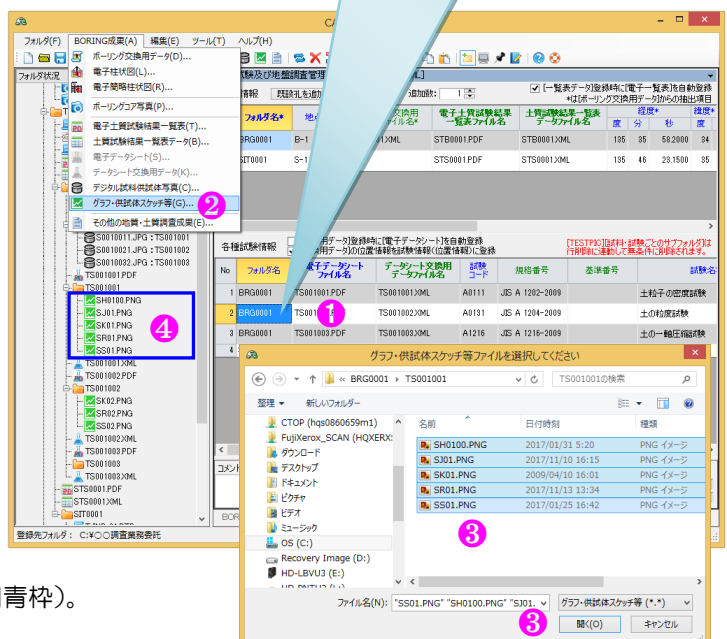
## 5.11. グラフ・供試体スケッチ等

[グラフ・供試体スケッチ等]ファイルを指定し、[電子納品]成果として登録します。

⚠ **本成果のみ、登録状況を管理ファイル（GRNDTST.XML）に登録しません。よって管理ファイルからは登録状況は確認できず、フォルダ状況からの確認となります。**

- ① 関連付ける各種試験情報を選択します。
- ② [BORING 成果]-[グラフ・供試体スケッチ等]をクリック（ツールバーおよびコンテキストメニューからも操作可能）します。→ファイル選択用ダイアログが表示されます。
- ③ [グラフ・供試体スケッチ等]ファイルを指定し、[開く]をクリックします（複数ファイル指定可能）。
- ④ 指定されたグラフ・供試体スケッチ等のファイル名をフォルダ状況に表示します（下図青枠）。

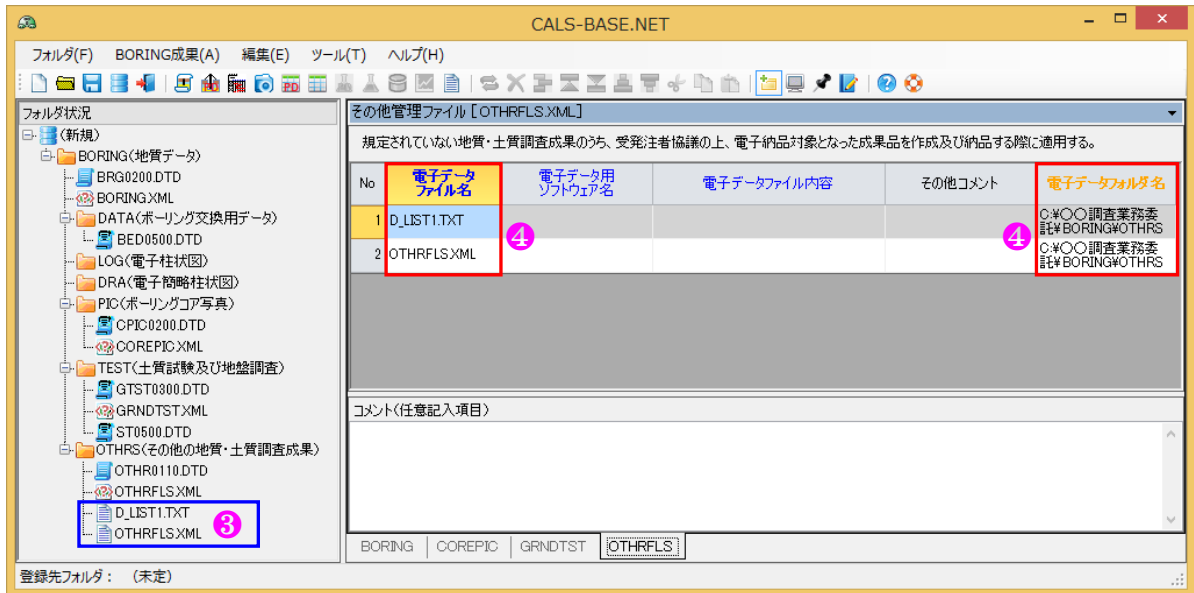
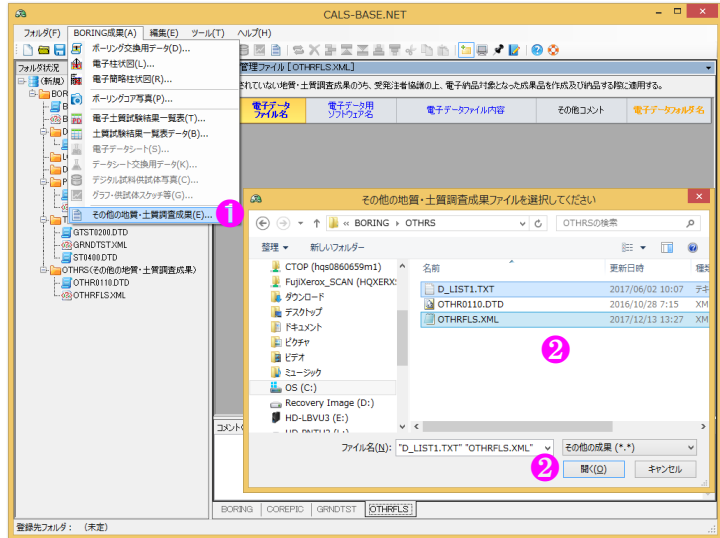
⚠ 前もって「関連付ける各種試験情報を選択」してからファイル指定します。



## 5.12. その他の地質・土質調査成果

[その他の地質・土質調査成果]ファイル指定し、[電子納品]成果として登録します。

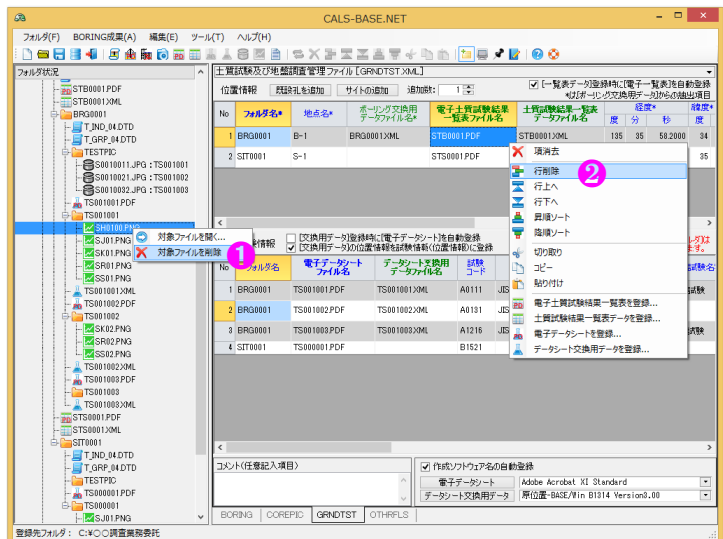
- ① [BORING 成果]-[その他の地質・土質調査成果]をクリック（ツールバーおよびコンテキストメニューからも操作可能）します。→ファイル選択用ダイアログが表示されます。
- ② [その他の地質・土質調査成果]ファイル指定し、[開く]をクリックします（複数ファイル指定可能）。
- ③ 指定されたその他の地質・土質調査成果のファイル名をフォルダ状況に表示します（下図青枠）。
- ④ [電子データファイル名]欄に指定されたファイルのファイル名をセットし、[電子データフォルダ名]欄に指定されたファイルの登録元フォルダ名をセットします（下図赤枠）。



## 5.13. 電子納品成果の指定解除

電子納品成果の指定解除は以下によります。

- ① [フォルダ状況]から解除したい電子納品成果ファイルをクリックし、コンテキストメニューから[対象ファイルを削除]をクリックします。  
→指定解除であり実際のファイルを削除するわけではありません。
- ② 管理ファイル一覧表で、当該の行を[行削除]します（メニュー・ツールバー・コンテキストメニューから操作可能）。  
→複数ファイルが一度に指定解除となる場合があります（詳細は「6.5.3.行削除」を参照）。



## 6. 管理ファイルの作成

本章では管理ファイルの作成方法について説明します。

管理ファイルは一覧表形式で構築されており、各一覧表の編集機能が[編集]メニューに割り当てられています。



### 6.1. 作成概要

[BORING]フォルダ以下の電子納品成果ファイルは、以下の4ファイル「BORING.XML・COREPIC.XML・GRNDTST.XML・OTHRFLS.XML」により管理されています。

このうち「GRNDTST.XML」以外の3ファイル「BORING.XML・COREPIC.XML・OTHRFLS.XML」については単純な2次元表であり、迷うことなく作成(入力)が可能です。

「GRNDTST.XML」は本来、多次元の1表ですが、3つの2次元表に分割して構築しています(詳細は「6.4. GRNDTST.XML 管理ファイル」を参照)。

**Step1: まずは「5.電子納品成果の指定」に従い、各電子納品成果を指定して下さい。**

特にボーリング交換用データ・データシート交換用データは、指定に伴い各管理ファイルの管理項目を抽出してセットするため、管理ファイル作成に先立って指定されることをお勧めします。

**!** 管理ファイルの各セルを入力後にボーリング交換用データ・データシート交換用データを指定した場合、入力データが上書きされてしまいます。

**Step2: 次に交換用データ指定により埋まらなかったセルの内容をキー入力します。**

**!** 交換用データから埋められたセルに修正が必要な場合はキー入力により修正が可能ですが、交換用データの同一項目のデータが不整合とならないように、交換用データの修正も必要です。

まずは交換用データの修正を行い、[管理項目の再登録]機能を利用することで、管理ファイルと交換用データとのデータの不整合を防止することが可能です(「6.5.1.管理項目の再登録」を参照)。

The screenshot displays the CALS-BASE.NET application with the following components:

- Folder Status (フォルダ状況):** A tree view on the left showing the project structure, including folders like BORING, COREPIC, GRNDTST, and OTHRFLS. Red arrows indicate the mapping from these folders to the data tables.
- BORING.XML Table:** A table with columns: No, ボーリング交換用データファイル名, 電子柱状図ファイル名, 電子地層柱状図ファイル名, ボーリング名, ボーリング寸法, 程度, 長さ, 深度. It contains 3 rows of data.
- COREPIC.XML Table:** A table with columns: No, 写真ファイル名, ボーリング名, ボーリング寸法, コア上端深度(m), コア下端深度(m), 撮影年月日, 撮影時間, 撮影日天候. It contains 2 rows of data.
- GRNDTST.XML Table:** A table with columns: No, フォルダ名, 地点名, ボーリング交換用データファイル名, 電子データシート交換用データファイル名, 試験コード, 規程番号, 基準番号, 試験名. It contains 4 rows of data.
- OTHRFLS.XML Table:** A table with columns: No, 電子データファイル名, 電子データ用ソフト名, 電子データファイル内容, その他コメント, 電子データファイル名. It contains 3 rows of data.



### 6.3.管理ファイルのレイアウト

各管理ファイルはレイアウト可能なタブ（BORING・COREPIC・GRNDTST・OTHRFLS）上に構築されているため、ユーザが自由にレイアウトすることが可能です。

**!** 特に BORING.XML・GRNDTST.XML は密接に関連付けられており、大きな画面な持っている PC で運用している場合は、できるだけ両管理ファイルを1度に視認できるようにレイアウトされることをお勧めします。

- ① レイアウトしたいタブタイトルをドラッグします。
- ② ドッキングマークが表示されるため、配置したいドッキングマーク上でドロップします。
- ③ そのまま Window 外までドラッグ&ドロップすることで、タブを独立した Window とすることも可能です。独立した Window とした場合は、タブタイトルではなく Window タイトルをドラッグ&ドロップします。

① BORING タブをドラッグ

② ドッキングマークが表示される

③ 例えば右側のドッキングマークでドロップすると

④ BORING タブが右側に配置される

⑤ 例えば下側のドッキングマークでドロップすると

⑥ BORING タブが下側に配置される

⑦ ドッキングマーク以外でドロップすると

⑧ BORING タブが独立した Window となる

修正（配置）したレイアウトは終了時に記憶し再利用することが可能

- ④ 各構成要素はサイズ変更可能なパネル上に構築されているため、各境界（右図赤線）にてマウスをドラッグ&ドロップすることでサイズ調整が可能です。

No	フォルダ名*	地点名*	ボーリング交換用データファイル名	電子土質試験結果一覧表ファイル名	土質試験結果一覧表ファイル名	程度*	度	分	秒	程度*	度	分	秒
1	BRG0001	B-1	BRG0001.XML	STB0001.PDF	STB0001.XML	135	35	58	2000	34			
2	SIT0001	S-1	STS0001.PDF	STS0001.XML	135	45	28	1500	35				

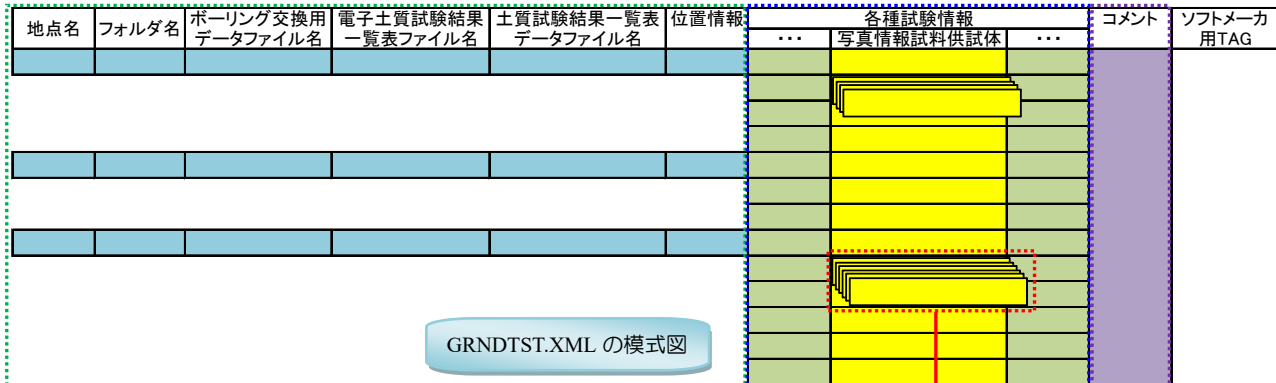
## 6.4. GRNDTST.XML 管理ファイル

[BORINGTEST] (土質試験及び地盤調査) 以下の電子納品成果ファイルを管理する土質試験及び地盤調査管理ファイルは[GRNDTST.XML]となります。

本ファイルの構造を規定する DTD (GTST0300.DTD) によれば、[GRNDTST.XML]は 2 次元表を 3 段重ねたような構造を持っており、模式的に表すと下図となります。

- ① 複数の地点名 (新設孔・既設孔・サイト) から構成されます。
- ② 各種試験情報は地点名毎に複数の情報で構成されます。
- ③ さらに写真情報供試体は各種試験情報毎に複数の情報で構成されます。

この状態のまま管理ファイルを認識および作成することは非常に難しいため、CALS-BASE.NET では [GRNDTST.XML]を[3 つの 2 次元表]と[1 つのテキストボックス]に分割して管理しています。



土質試験及び地盤調査管理ファイル [GRNDTST.XML] のスクリーンショットは、以下の要素を含みます:

- 位置情報表:** No, フォルダ名, 地点名, ボーリング交換用データファイル名, 電子土質試験結果一覧表ファイル名, 土質試験結果一覧表データファイル名, 経度\* (度分秒), 緯度\* (度分秒), 測地系, 標高\* TP+(m), 位置情報コメント, 電子土質試験結果一覧表フォルダ名, 土質試験結果一覧表データフォルダ名。
- 各種試験情報表:** No, フォルダ名, 電子データシートファイル名, データシート交換用データファイル名, 試験コード, 規格番号, 基準番号, 試験名称, 試料番号, 試料採取情報, 試料上端深度 GL-m, 試料下端深度 GL-m, 試験開始年月日, 試験終了年月日, 試験国。
- 写真情報供試体表:** デジタル試料提供体写真ファイル名, 写真内容, デジタル試料提供体写真フォルダ名。
- コメント:** コメント(任意記入項目)。

注釈:

- フォルダ名 (リレーショナルキー) により両表の関連を維持しています (位置情報の行削除により各種試験情報の対応行が削除されます)。
- GTST0300.DTD から[データ説明書ファイル名]欄が追加
- コメント用テキストボックス
- [グラフ・供試体スケッチ等]の指定情報は管理ファイルには登録されません。

- ① 地点名～位置情報を、[位置情報]として1つの表にまとめています (親テーブル：緑枠)。
- ② [各種試験情報]を1つの表にまとめています (子テーブル：青枠)。
- ③ [写真情報供試体]を1つの表にまとめています (孫テーブル：赤枠)。常時は表示されておらず[デジタル供試体写真]登録コマンドの呼び出しで表示されます。

デジタル試料供試体写真を追加・削除のダイアログボックスは、登録先フォルダ名: BRG0001WTESTPIC を示しています。表には以下の情報が表示されています:

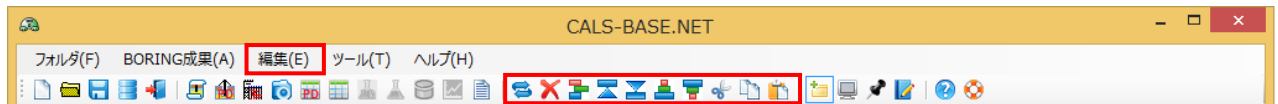
No	デジタル試料提供体写真ファイル名	写真内容	デジタル試料提供体写真フォルダ名
1	S0010011.JPG	試験前試料状況	C:\O\調査業務委託BORINGTEST\BRG0001\WTESTPIC

注意: フォルダ状況の更新は実行後クリックした段階で実施されます。

[位置情報]と[各種試験情報]一覧表の関連は[フォルダ名]をリレーショナルキー(1対多)として維持しています。[各種試験情報]と[写真情報供試体]一覧表の関連は[フォルダ名+試験名]をリレーショナルキー(1対多)として維持しています (試験名とは電子データシート・データシート交換用データの拡張子を除くファイル名)。

## 6.5. 編集

本節では[編集]メニューに割り当てられている機能について説明します。

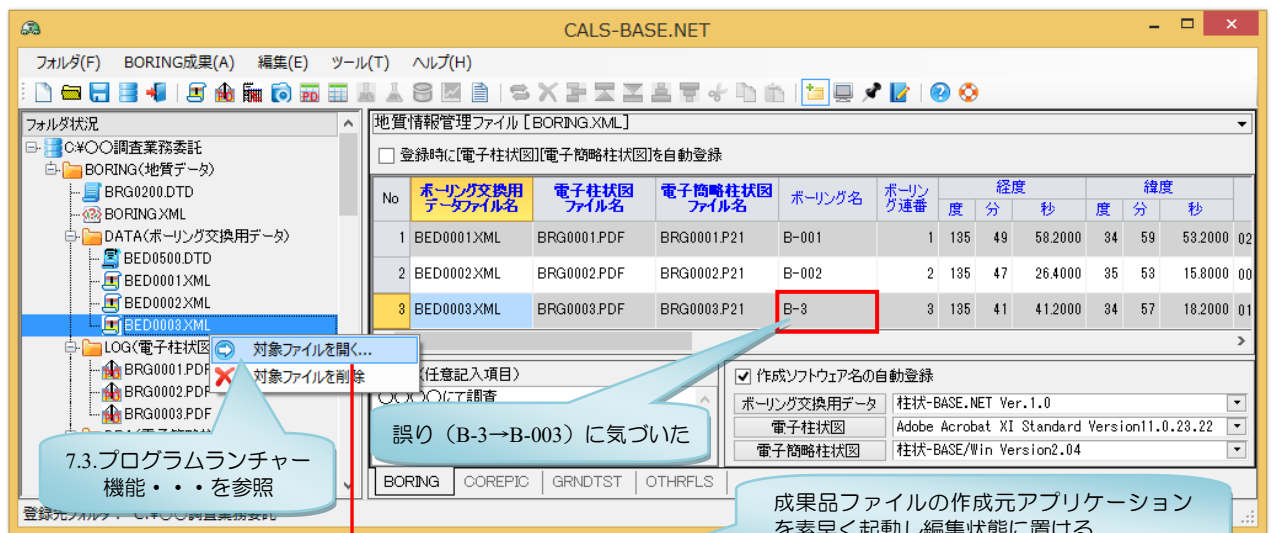


### 6.5.1. 管理項目の再登録

指定済みの電子納品成果ファイルから[管理ファイル]の登録項目を再度読み込み、管理ファイル一覧表にセットします。

例えば、ボーリング交換用データを指定した後でボーリング名の誤り（B-3→B-003）に気づいたとします。

この際、当該セルに移動しキー入力により誤りを修正（B-3→B-003）することはもちろん可能ですが、このままではボーリング交換用データと不整合（同一項目のデータが一致しない）となってしまいます。

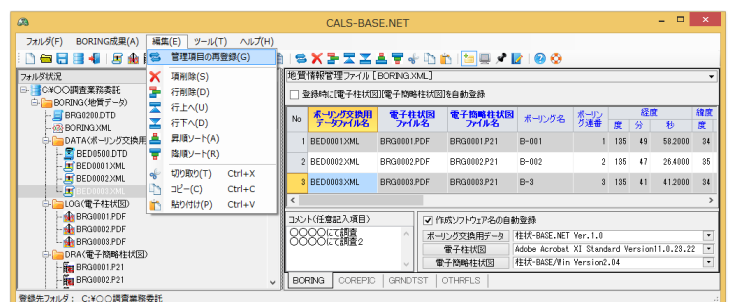
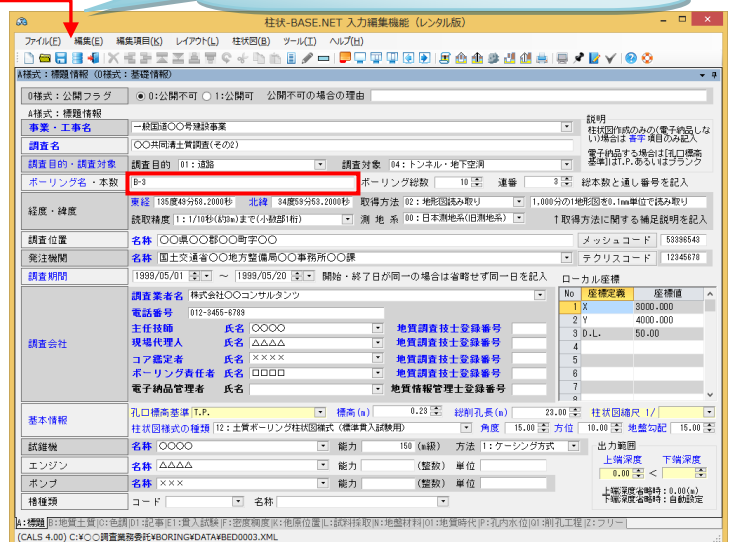


まずはボーリング交換用データの修正を行い（右図）、修正後に[管理項目の再登録]機能により管理ファイル一覧表を更新することをお勧めします。

管理ファイルの当該行を行削除してから電子納品成果を再指定することも可能ですが、行削除により関連するファイル指定や他の管理ファイル一覧表の指定が失われる場合がありますが、[管理項目の再登録]機能によれば関連情報の削除を考慮する必要はありません。

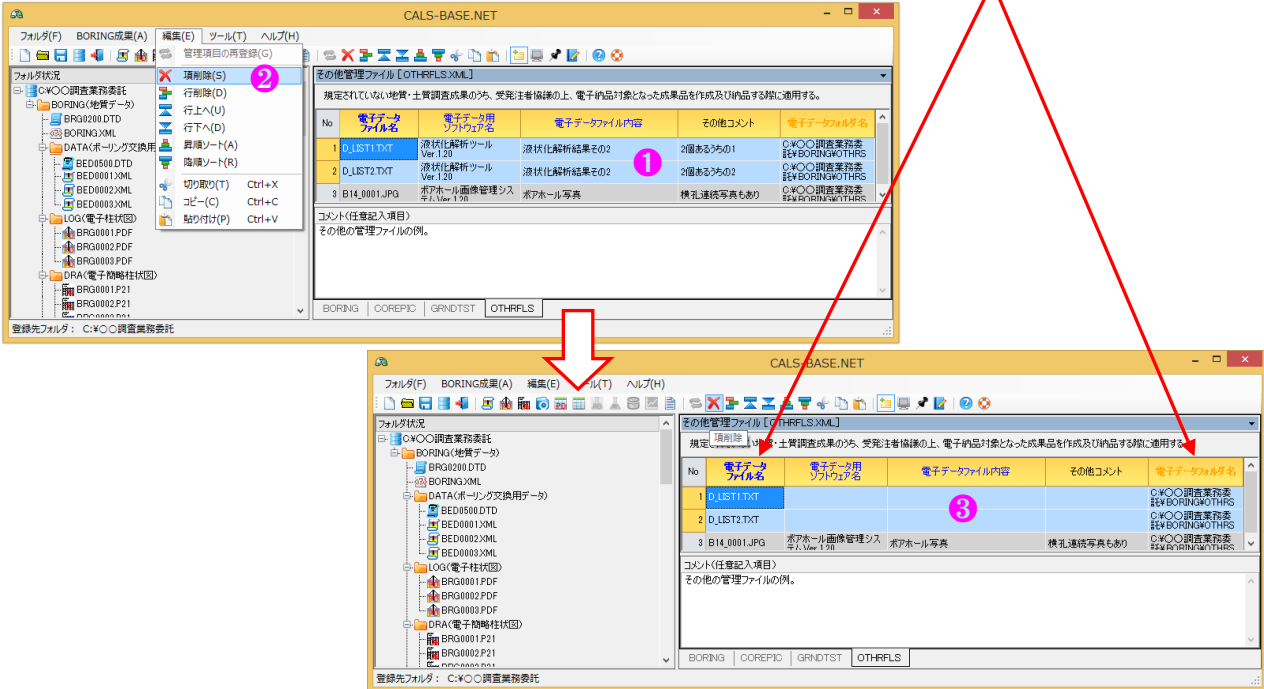
この際、[フォルダ状況]において当該ファイルを右クリック→[対象ファイルを開く]をクリックする事で、成果ファイルの作成元アプリケーションを素早く起動し編集状態に置けるプログラムランチャー機能の使用をお勧めします。

- ① 再登録する交換用データファイル名のセル（あるいは行）を選択します。
- ② [編集]-[管理項目の再登録]をクリック（ツールバーからも操作可能）します。



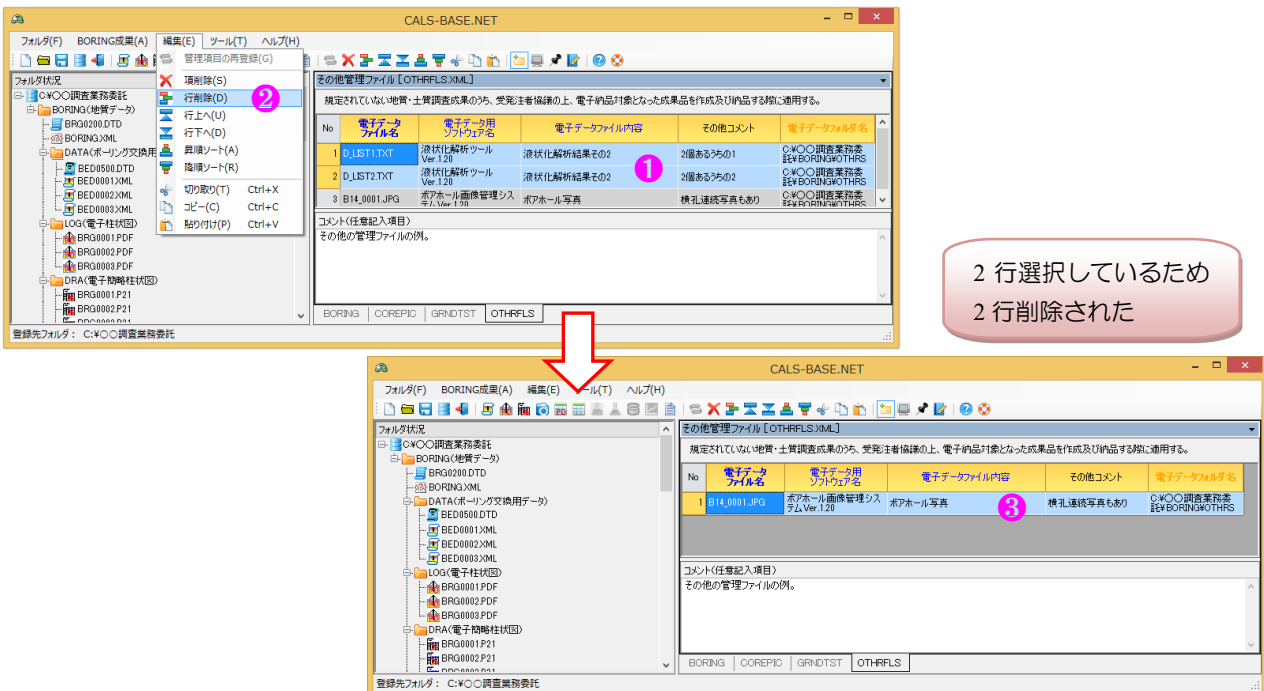
### 6.5.2. 項削除

- ① 削除したいセルを（範囲）選択します。  
→範囲選択：開始セルをクリックし、終了セルを[Shift]キーを押しながらクリックします。
- ② [編集]-[項削除]をクリック（ツールバー及びコンテキストメニューからも操作可能）します。
- ③ 選択中セルの入力データを削除します。  
⚠太字（Bold）は「5.電子納品成果の指定」により登録される項目であり、項削除ができない項目です。



### 6.5.3. 行削除

- ① 行削除したい範囲の行を選択します。  
→行選択：No 欄で範囲選択すると行選択となります。
- ② [編集]-[行削除]をクリック（ツールバー及びコンテキストメニューからも操作可能）します。
- ③ 選択された範囲行を削除します。



行削除により関連する管理ファイル一覧表の行削除や、成果品ファイル指定が解除されます。

行削除前

STEP1: BORING.XML の 1 行目を行削除

行単位ではなくファイル単位で指定解除する場合はコンテキストメニューから・・・

STEP2: 関連する GRNDTST.XML 位置情報の 1 行目が行削除される

STEP3: 関連する GRNDTST.XML 各種試験情報の 1~3 行目が行削除される

COREPIC.XML・OTHRFLS.XML は関連して削除されることはありません。

STEP4: 関連するファイル指定も解除される

No	ボーリング交換用データファイル名	電子柱状図ファイル名	電子縮略柱状図ファイル名	ボーリング番号	経度	緯度
1	BED0001.XML	BRG0001.PDF	BRG0001.P21	B-001	135 49 58.2000	34 59 53.2000
2	BED0002.XML	BRG0002.PDF	BRG0002.P21	B-002	2 135 47 26.4000	35 53 15.8000
3	BED0003.XML	BRG0003.PDF	BRG0003.P21	B-3	3 135 41 41.2000	34 57 18.2000

No	フォルダ名*	地点名*	ボーリング交換用データファイル名*	電子土質試験結果一覧表ファイル名	土質試験結果一覧表データファイル名	経度*	緯度*
1	BRG0001	B-1	BRG0001.XML	STB0001.PDF	STB0001.XML	135 35 58.2000	34
2	SIT0001	S-1		STS0001.PDF	STS0001.XML	135 46 23.1500	35

No	フォルダ名	電子データファイル名	データ交換用データファイル名	試験コード	規格番号	基準番号	試験名
1	BRG0001	TS001001.PDF	TS001001.XML	A0111	JIS A 1202-2009		土粒子の密度試験
2	BRG0001	TS001002.PDF	TS001002.XML	A0131	JIS A 1204-2009		土の粒度試験
3	BRG0001	TS001003.PDF	TS001003.XML	A1216	JIS A 1216-2009		土の一軸圧縮試験
4	SIT0001	TS000001.PDF		B1521	JGS 1521-2012		平板載荷試験

行削除後

BORING.XML の 1 行目を行削除することで、非常に多くの関連付けた情報が削除されることを確認して下さい。

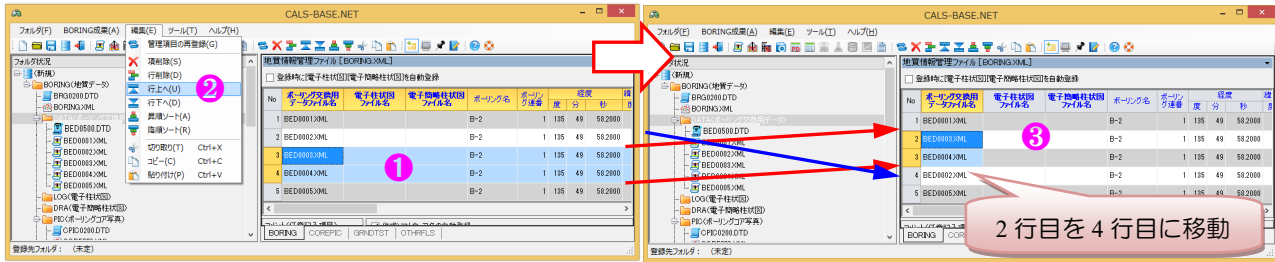
No	ボーリング交換用データファイル名	電子柱状図ファイル名	電子縮略柱状図ファイル名	ボーリング番号	経度	緯度
1	BED0002.XML	BRG0002.PDF	BRG0002.P21	B-002	2 135 47 26.4000	35 53 15.8000
2	BED0003.XML	BRG0003.PDF	BRG0003.P21	B-3	3 135 41 41.2000	34 57 18.2000

No	フォルダ名*	地点名*	ボーリング交換用データファイル名*	電子土質試験結果一覧表ファイル名	土質試験結果一覧表データファイル名	経度*	緯度*
1	SIT0001	S-1		STS0001.PDF	STS0001.XML	135 46 23.1500	35

No	フォルダ名	電子データファイル名	データ交換用データファイル名	試験コード	規格番号	基準番号	試験名
1	SIT0001	TS000001.PDF		B1521	JGS 1521-2012		平板載荷試験

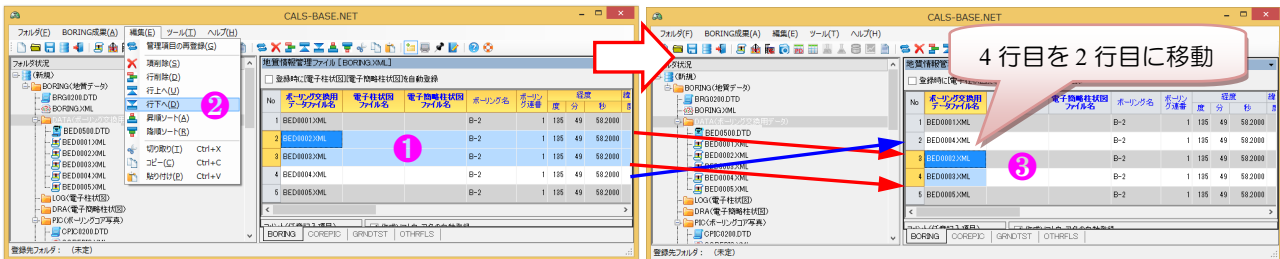
### 6.5.4. 行上へ

- ① 上に移動したい範囲の行を選択します。  
→行選択：No 欄で範囲選択すると行選択となります。
- ② [編集]-[行上へ]をクリック（ツールバー及びコンテキストメニューからも操作可能）します。
- ③ 選択された範囲行を上へ1行移動し、上の行を範囲下に移動します。



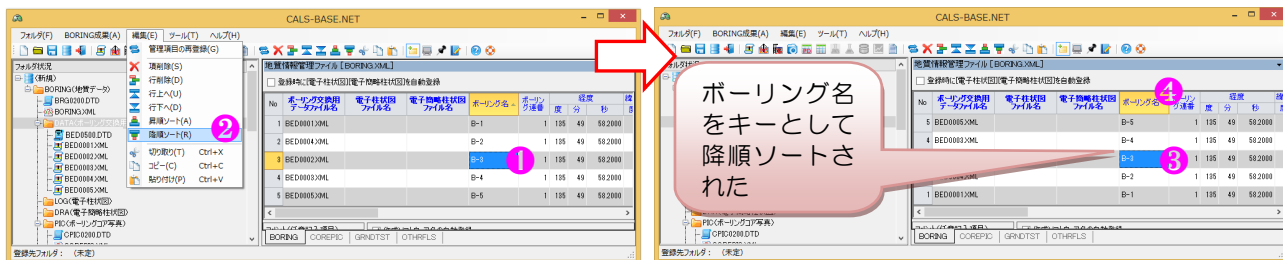
### 6.5.5. 行下へ

- ① 下に移動したい範囲の行を選択します。  
→行選択：No 欄で範囲選択すると行選択となります。
- ② [編集]-[行下へ]をクリック（ツールバー及びコンテキストメニューからも操作可能）します。
- ③ 選択された範囲行を下へ1行移動し、下の行を範囲上に移動します。



### 6.5.6. 昇順ソート・降順ソート

- ① ソートキーとなるセルを選択します。
- ② [編集]-[昇順ソート]あるいは[編集]-[降順ソート]をクリック（ツールバー及びコンテキストメニューからも操作可能）します。
- ③ 選択されたセルの列をキーとして昇順あるいは降順にソートします。
- ④ 列タイトルをクリックすると、クリックした列をソートキーとして昇順⇄降順ソートされます。



### 6.5.7. 切り取り・コピー・貼り付け

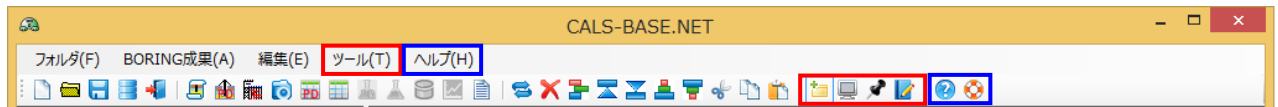
- ① 切り取り：選択中セルの入力データを削除し、切り取った（削除した）データをクリップボードにコピーします。項削除と同一操作となります。
- ② コピー：選択されたセルのデータをクリップボードにコピーします。
- ③ 貼り付け：選択されたセルに、クリップボードにコピーしたデータを貼り付けます。

⚠ 太字 (Bold) は「5.電子納品成果の指定」により登録される項目であり、[切り取り][貼り付け]ができない項目です。



## 7. その他の機能

本章ではその他の機能として、主に[ツール]および[ヘルプ]メニューに割り当てた機能について説明します。



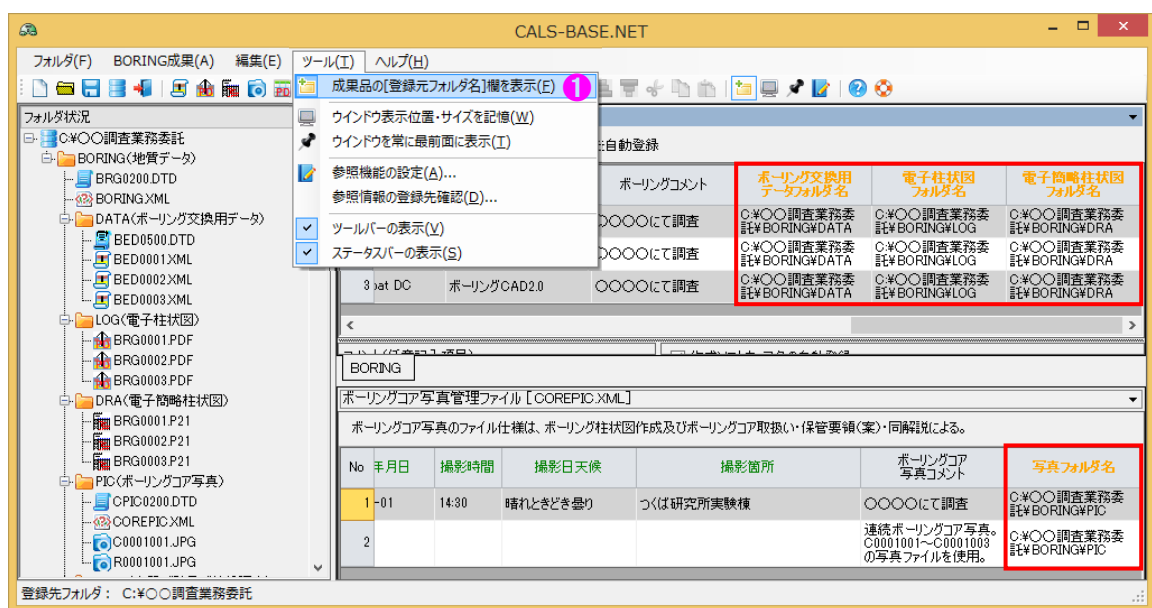
### 7.1. ツール

#### 7.1.1. 成果品の[登録元フォルダ名]欄を表示

管理ファイル一覧表の[登録元フォルダ名]欄の表示・非表示を切り替えます。

- ① [ツール]-[成果品の[登録元フォルダ名]欄を表示]をクリック（ツールバーからも操作可能）します（表示・非表示が順に切り替わります）。

⚠ 非表示とすることで管理ファイル一覧表の項目のみとなります。

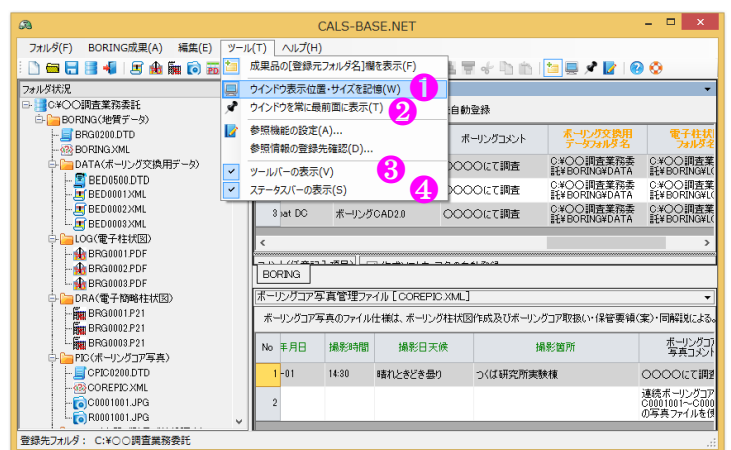


#### 7.1.2. ウィンドウ表示位置・サイズを記憶

- ① [ツール]-[ウィンドウ表示位置・サイズを記憶]をクリック（ツールバー及びコンテキストメニューからも操作可能）します。→有効にすると、ダイアログの表示位置・サイズ・レイアウトを記憶し、次回表示の場合に再現します。

#### 7.1.3. ウィンドウを常に前面に表示

- ② [ツール]-[成果品の[ウィンドウを常に前面に表示]をクリック（ツールバー及びコンテキストメニューからも操作可能）します。→有効にすると、メイン画面が常に前面に表示され、他の Window に隠れることはありません。



他のダイアログでも同一の機能（）があります。

#### 7.1.4. ツールバーの表示・ステータスバーの表示

- ③ [ツール]-[ツールバーの表示]をクリックにより、ツールバーの表示・非表示が切り替わります。
- ④ [ツール]-[ステータスバーの表示]をクリックにより、ステータスバーの表示・非表示が切り替わります。

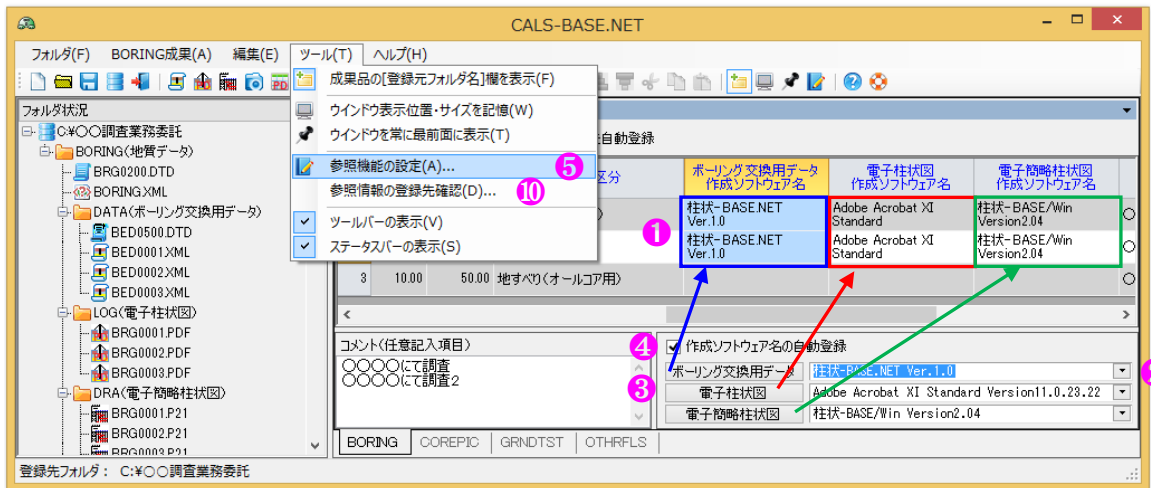
## 7.2. 作成ソフトウェア名登録と参照機能

管理ファイル一覧表のうち[BORING]および[GRNDTST：各種試験情報]の電子納品成果ファイルを作成した「作成ソフトウェア名」を登録する補助機能について説明します。

⚠ 何故か「電子土質試験結果一覧表」「土質試験結果一覧表データ」については「作成ソフトウェア名」の登録は求められていません。

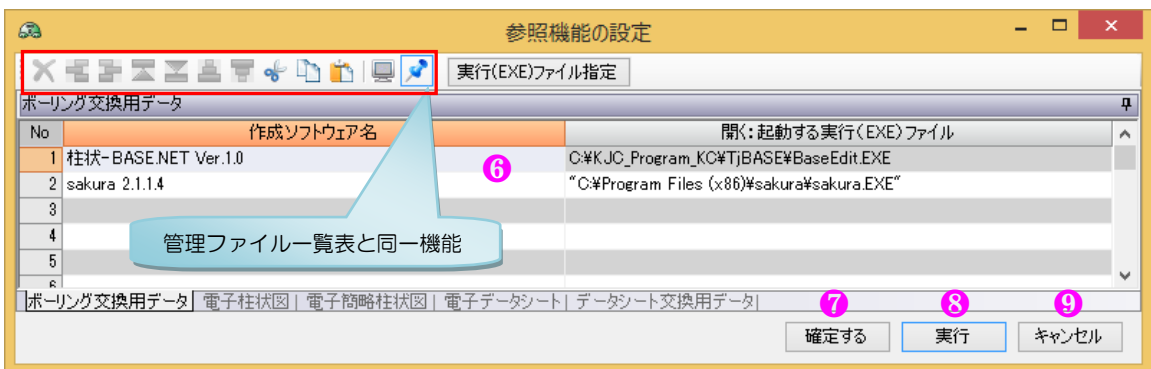
⚠ [OTHERFLS]の電子データ用ソフトウェア名については、多様であるため補助機能はありません。

- ① 作成ソフトウェア名を登録したいセルあるいは行を選択します。
- ② ドロップダウンリスト (▼) から登録するソフトウェア名を選択します (キー入力も可能です)。
- ③ [ボーリング交換用データ][電子柱状図][電子簡略柱状図]ボタンをクリックします。
- ④ [作成ソフトウェア名の自動登録]をチェックすると成果品ファイル指定時に自動登録します。



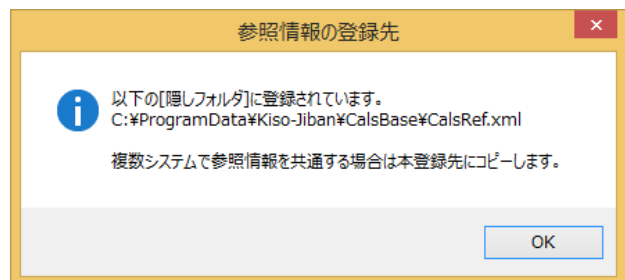
このドロップダウンリストの項目 (ソフトウェアリスト) を参照機能により管理しています。

- ⑤ [ツール]-[参照機能の設定]をクリック (ツールバーからも操作可能) します。  
→参照機能の設定ダイアログが表示されます。
- ⑥ 必要とする[作成ソフトウェア名]を入力します (開くについては後述)。
- ⑦ [確定する]ボタンのクリックにより、編集内容をファイルに保存します。
- ⑧ [実行]ボタンのクリックにより、編集内容をファイルに保存し[参照機能の設定]ダイアログ表示を終了します。
- ⑨ [キャンセル]ボタンのクリックにより、編集内容をキャンセルし[参照機能の設定]ダイアログ表示を終了します。但し、[確定する]ボタンをクリックした段階までのデータはキャンセルされません。



編集整備した参照データを他 PC と共有することで、作成ソフトウェア名および後述するプログラムランチャー機能を共有することが可能となります。参照データファイルは[CalsRef.xml]で統一ですが、登録先は使用 OS および OS の設定により異なります。以下操作により登録先フォルダを確認し、配布ファイルを上書きコピーします。

- ⑩ [ツール]-[参照情報の登録先確認]をクリックすると、[参照情報の登録先]ダイアログが表示されます。



## 7.3. プログラムランチャーと参照機能

成果品ファイルの作成元アプリケーションを素早く起動する**プログラムランチャー機能**があります。

電子納品成果ファイルの多くが XML や PDF 等の同一ファイル形式であるため、ファイルエクスプローラ等の拡張子毎のランチャー機能は有効ではありませんが、CALC-BASE.NET では**作成ソフトウェア毎に起動アプリケーションを指定できる**ため、下図に示すように同一 XML 形式のデータシート交換用データ毎に起動アプリケーションの切替が可能です。

ボーリング交換用データやデータシート交換用データなど XML 形式の成果品ファイルの登録により、管理ファイルの多くの項目が自動的に登録されます。これらの項目に対し修正を行う場合は管理ファイルの編集のみでなく、元データの修正も併せて行う必要があり、成果品ファイルの作成元アプリケーションを素早く起動し編集状態に置ける本機能は、電子納品成果作成における高い効率性と精度維持に貢献します。

データシート交換用データの登録により、管理ファイルの多くの項目が自動的に登録される。

作成ソフトウェア毎に起動アプリケーションを指定する。

ツリービューで開くファイルをクリックし、コンテキストメニューから起動する。

作成ソフトウェアの指定補助機能

同一 XML 形式のデータシート交換用データ毎に起動アプリケーションの変更が可能

No	フォルダ名*	地点名*	ボーリング交換用データファイル名*	電子土質試験結果一覧表ファイル名*	土質試験結果一覧表データファイル名*	経度*	緯度*	測地系*	標高* T.P.(m)	位置情報コメント
1	SIT0001					135 35 58.1000	34 59 53.1000	02:世界(JGD2011)	0.23	
2	SIT0002					135 35 58.1000	34 59 53.1000	02:世界(JGD2011)	0.23	
3	SIT0003					135 35 58.1000	34 59 53.1000	02:世界(JGD2011)	0.23	
4	SIT0004					135 35 58.1000	34 59 53.1000	02:世界(JGD2011)	0.23	

No	フォルダ名	データシート交換用データファイル名	試験コード	基準番号	試験名称	試験上端深度 Q <sub>L</sub> -m	試験下端深度 Q <sub>L</sub> -m	試験開始年月日	試験終了年月日	試験者	写真情報	データシート交換用データ作成ソフトウェア名
1	SIT0001	TS000009.XML	B1431	JGS 1431-2012	ポータブルコーン貫入試験	0.00	3.50	2016-06-27	2016-06-27	日本太郎		原位置-BASE/Win B1431 Version3.00
2	SIT0002	TS000010.XML	B1433	JGS 1433-2012	簡易動的コーン貫入試験	0.00	1.70	2016-05-01	2016-05-01	日本太郎		原位置-BASE/Win B1433 Version3.00
3	SIT0003	TS000014.XML	B1314	JGS 1314-2012	準孔を利用した透水試験	4.00	4.50	2016-07-19	2016-07-19	日本太郎		原位置-BASE/Win B1314 Version3.00
4	SIT0004	TS000022.XML	B1521	JGS 1521-2012	平板載荷試験	0.00	0.50	2016-07-17	2016-07-17	日本太郎		原位置-BASE/Win B1521 Version3.00

この作成ソフトウェアと起動アプリケーションの関係を参照機能により管理しています。

- ① [開く]欄に[作成ソフトウェア名]毎の起動コマンドラインを入力します。  
→コマンドラインに空白（空白）が入る場合は[""]ダブルクォーテーションで挟みます。
- ② [実行 (EXE) ファイルを指定]をクリックすることで起動 (EXE) ファイル選択による指定が可能です。

⚠ 起動コマンドラインが指定されていない場合は、拡張子に応じたシステムを起動します。

参照機能の設定

実行(EXE)ファイル指定

No	作成ソフトウェア名	開く: 起動する実行(EXE)ファイル
1	原位置-BASE/Win B1314 Version3.00	C:\KJC_Program_KC\B1314\4#B1314.exe
2	原位置-BASE/Win B1431 Version3.00	C:\KJC_Program_KC\B1431\4#B1431.exe
3	原位置-BASE/Win B1433 Version3.00	C:\KJC_Program_KC\B1433\4#B1433.exe
4	原位置-BASE/Win B1521 Version3.00	C:\KJC_Program_KC\B1521\4#B1521.exe
5		

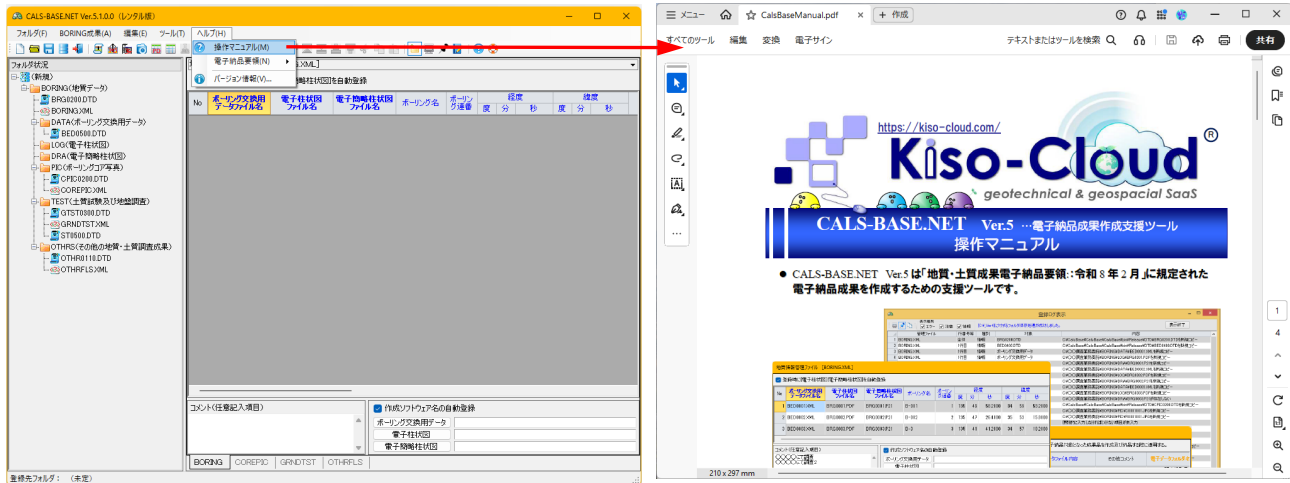
ボーリング交換用データ | 電子柱状図 | 電子簡略柱状図 | 電子データシート | データシート交換用データ

確定する 実行 キャンセル

## 7.4. ヘルプ

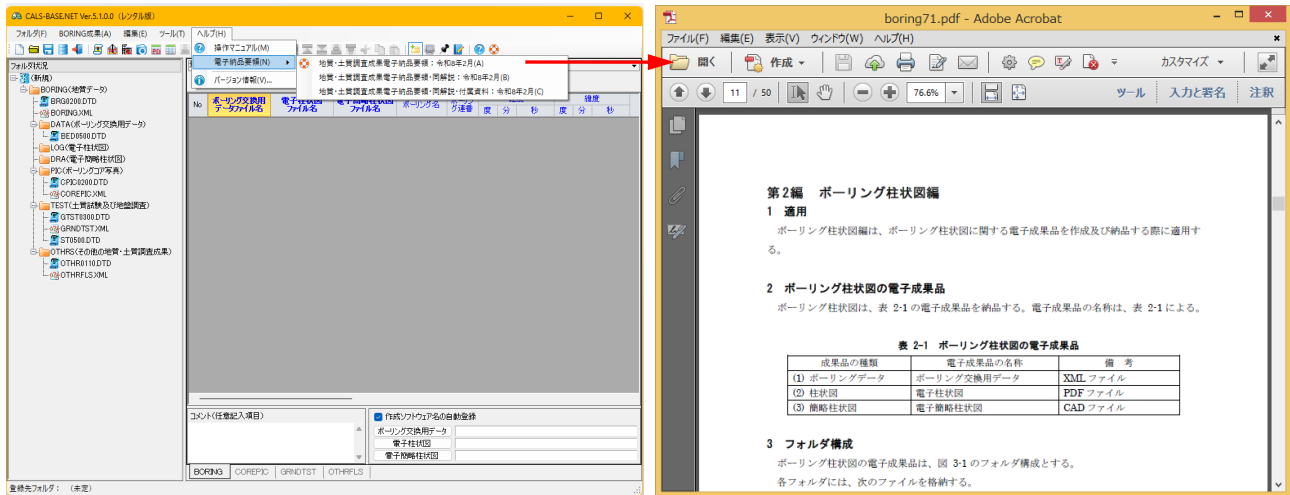
### 7.4.1. 操作マニュアル

- ① [ヘルプ]-[操作マニュアル]クリックにより、本書を表示します。



### 7.4.2. 電子納品要領

- ① [ヘルプ]-[電子納品要領]クリックにより、表示中の管理ファイルに対応した「地質・土質調査成果電子納品要領」「\>・同解説」「\>・付属資料」ページを簡単に表示することができます。
- 入力中の管理ファイル一覧表に関連したページを表示させるためには、起動時ページ指定により関連ページに移動するため、一旦 PDF 表示を終了する必要があります。



### 7.4.3. バージョン情報

- ① [ヘルプ]-[バージョン情報]により、本システムのバージョン情報が表示されます。
- ② [OK]ボタンをクリックすると表示が終了します。
- レンタル版の場合は Serial No.は必ず TJ-99999999-999999-999-999 となります。
  - Kiso-Cloud 上のバージョン番号と比較し、システムが古い場合は、Kiso-Cloud から新しいシステムをダウンロードしてインストールします。

